

# 安全・社会・環境報告書 2012 CSRレポート



## 編集方針

本報告書では、企業活動の社会的側面・環境的側面と、当社の最大の使命である安全面の取り組みを基本的な報告要素として構成しています。また本報告書は、鉄道事業法第19条の4により公表が義務づけられた「安全報告書」を兼ねています。

社会性報告については京王グループ理念にある「つながりあうすべての人」を念頭に置き、各ステークホルダーとの取り組みが伝わることに留意しました。また、京王グループが積極的に取り組んでいるものや独自に取り組んでいるものについてスポットを当て、特集しています。

今回発行する「安全・社会・環境報告書 2012 CSRレポート」の特集は、鉄道の省エネルギーに関する取り組みから始まり、災害・事故対策に関する取り組み、次世代育成に関する取り組み、そして生物多様性保全に関する取り組みの4つです。是非ご覧ください。

京王グループは、今後も、お客さまに安全で快適なサービスの提供に努めていくとともに、株主さま・社員・地域社会・行政といったステークホルダーと誠実な関係をつくり、「住んでもらえる、選んでもらえる沿線」を追い求め、「信頼のトップブランド」になることを目指します。

本報告書は、さまざまな情報を開示し京王グループへの理解を深めていただくとともに、皆さまとのコミュニケーションツールとして、企業活動の継続的改善に役立ててまいります。アンケートを挟み込みましたので、ご意見、ご感想などをいただければ幸いです。

### 【報告範囲・報告時期】

◎本報告書は、京王電鉄単体（鉄道事業部門、開発事業部門、一般管理部門）の2011年度（2011年4月1日～2012年3月31日）の報告です。

◎環境負荷データおよび環境会計データは、京王電鉄単体の2007年度～2011年度のデータです。

◎活動事例は、一部2011年度以前・以後の事例、および京王グループの事例を含みます。

## 目次

トップメッセージ	4
<b>特集</b>	
特集1 京王グループはさまざまな省エネルギー施策に取り組んでいます	6
特集2 お客さまに安全・安心を。さまざまな災害・事故対策を推進しています	8
特集3 未来を担う子どもたちに新しい体験の場を提供しています	10
特集4 生物多様性の保全に取り組んでいます	12
京王グループ理念に基づくガバナンス体制	14
<b>安全報告</b>	
安全性の向上を目指し、日々改善を積み重ねてまいります	18
輸送の安全確保に関する基本的な方針と安全重点施策	19
安全管理体制と安全管理方法	21
輸送の安全の実態	23
安全な鉄道の実現に向けたソフト面・ハード面の取り組み	26
お客さまと連携したより安全な鉄道づくり	36
グループ会社でも安全対策を推進	38
<b>社会性報告</b>	
お客さまとともに	40
株主さまとともに	44
協力会社・行政とともに	45
社員とともに	46
地域社会とともに	48
<b>環境報告</b>	
環境マネジメント	50
2014年度までの中期環境目標	52
環境負荷の把握	53
2011年度の活動実績と2012年度の環境目標	54
京王電鉄の活動事例	56
グループ会社の活動事例	58
社会・環境コミュニケーション	59
環境会計	62
本報告書に関する専門家の意見	63

## 会社概要

社名	京王電鉄株式会社
会社設立	1948年6月1日
本社所在地	〒206-8502 東京都多摩市関戸一丁目9番地1 (登記上の本店所在地 〒160-0022 東京都新宿区新宿三丁目1番24号)
資本金	590億23百万円
従業員数	2,380名(2012年3月31日現在)
営業内容	<p><b>[鉄道事業]</b></p> <p>路線 京王線、高尾線、相模原線、競馬場線、動物園線、井の頭線</p> <p>駅数 69駅</p> <p>営業キロ 84.7km</p> <p>輸送人員 年間6億1,906万人(2011年度実績)</p> <p>車両数 849両 (貨車5両および総合高速検測車1両を含む)</p> <p><b>[開発事業(土地、建物の賃貸業・販売業など)]</b></p> <p>新規賃貸資産の開発 賃貸資産の管理・営業 ショッピングセンターの管理・運営 住宅地等の販売</p>
グループ会社数	全44社

## 京王グループ会社一覧

### 運輸業

- 京王電鉄(鉄道)
- 京王電鉄バスグループ
  - 京王電鉄バス
  - 京王バス東
  - 京王バス中央
  - 京王バス南
  - 京王バス小金井
- 西東京バス
- 京王自動車
- 京王運輸
- 御岳登山鉄道\*

### 不動産業

- 京王電鉄(開発)
- 京王不動産
- 京王地下駐車場
- リビタ

### レジャー・サービス業

- 京王プラザホテル
- 京王プラザホテル札幌
- 京王レッスンイン
- 京王観光
- 京王エージェンシー
- 京王レクリエーション
- レストラン京王
- 京王コスチューム\*

### 流通業

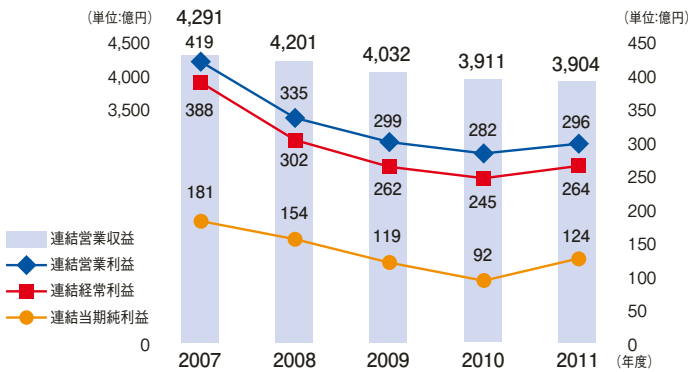
- 京王百貨店
- 京王ストア
- 京王リテールサービス
- 京王書籍販売
- 京王電鉄(ショッピングセンター)
- 京王バスポートクラブ
- 京王アートマン
- 京王食品
- 京王グリーンサービス
- エリート\*
- 京王友の会\*
- 京王商事\*

### その他業

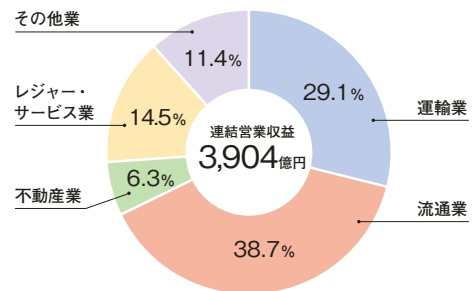
- 京王設備サービス
- 京王重機整備
- 東京特殊車体
- 京王建設
- 京王ITソリューションズ
- 京王アカウンティング
- 京王ビジネスサポート
- 京王ユース・プラザ
- 京王シンシアスタッフ
- 京王子育てサポート
- 京王ウェルシステージ
- 新東京エリート\*

※ 印は持分法適用会社です。なお、事業セグメント分類上、京王電鉄が重複して含まれています。(2012年9月末現在)

## 連結業績の推移



## 連結営業収益の構成比率



# 「信頼のトップブランド」の確立に向けて、 鉄道の安全文化の構築と持続的発展が可能な 社会の実現を目指します。



京王電鉄株式会社 取締役社長

永田 正

### 運輸安全マネジメントと 施設改善を着実に推進し、安全な鉄道の 実現を目指していきます。

当社をはじめ京王グループのすべての運輸事業者は「安全は最大の使命であり、最高のサービスである」との信念のもと、事業を展開しています。

鉄道事業では、さらなる安全文化の構築に向けて、運輸安全マネジメントを推進します。鉄道事業のサービスの根幹が安全の確保であることを、事業に携わるもの全員が認識し、トップから現場まで全社一丸となって、安全の確保と事故の撲滅に向けて邁進しています。一方、ハード面では、東京都や調布市と協力して進めてきました調布駅付近連続立体交差事業で、この8月に地下線への切り替えを実施し、18カ所の踏切を廃止、3駅にホームドアを設置するなど、安全性を飛躍的に向上させました。

また、ATCシステム（自動列車制御装置）を、京王線に

引き続き2012年度末には井の頭線を切り替え、全線の整備を完了します。このほか、高架橋などの耐震補強工事、新宿駅へのホームドア設置工事を鋭意進めるなど、安全対策の強化に取り組んでいきます。

さらに、笹塚以西の鉄道立体化について、事業主体である東京都とともに事業化に向け、都市計画手続きや環境影響評価などを進めています。



2012年3月「安全再確認の日」職場巡視

---

## 持続的発展が可能な 社会の実現を目指して、環境に配慮した 事業活動を推進していきます。

京王グループは常に環境に配慮し、持続的発展が可能な社会の実現を目指して事業運営を推進しています。

鉄道部門では、電車走行のエネルギー効率を高めるため、電力を有効に活用できる「回生ブレーキ」に加え、電車のモーターを効率よく動かす「VVVFインバータ制御装置」を1991年度から順次導入し、今年度には大手民鉄16社で初めてとなる搭載率100%を達成しました。この取り組みにより走行するのに必要な消費電力量は、装置導入前と比較して約45%を削減、エネルギー効率の大幅な向上を実現しました。

また、自然光を取り込める透過式太陽光発電パネル、屋上庭園などを備え、駅施設と商業施設を一体的に整備した永福町駅/京王リトナード永福町が「第56回鉄道建築協会賞」作品部門に入選するなど、環境に配慮した取り組みが高く評価されました。

開発部門では、大規模事業所を中心に空調、ボイラーや照明の高効率化、太陽光発電システムの設置など、CO<sub>2</sub>排出量削減に向けたさまざまな省エネルギー施策を積極的に実施しています。

グループ各社では、4社がISO14001認証を取得、運輸部門6社がグリーン経営認証を取得しているほか、ISO14001の規格に準じた活動やエコアクション21に則した活動を展開するなどグループ全体で環境マネジメントを継続的に進めています。

今後も京王グループ全体で、エネルギー使用量削減をはじめとした環境関連法令を確実に遵守するとともに、環境保全に有効で地球に優しい事業活動を積極的に推進していきます。

---



2011年4月 高尾の森「第11回 植樹祭」

---

## 「住んでもらえる、選んでもらえる沿線」 を追い求め続けます。

2012年度に京王グループ経営ビジョンを改定しました。京王グループはこれまでも増して、安心・便利で活き活きとした沿線づくりに取り組み、信頼され「住んでもらえる、選んでもらえる沿線」を追い求め続けたいと考えています。

沿線が将来にわたり活力を維持できるサイクルを作り上げるため、生活サポートや子育て支援事業を積極的に進めています。日常の「家事」や「住まい」に関わるサービスをはじめ、「安心・安全」に役立つお手伝いまで幅広くお客様のニーズにお応えする「京王ほっとネットワーク」でのサービスメニューの拡充や、これまでの東京都認証保育所「京王キッズプラッツ」6施設の運営に加え、2011年7月には、民間学童保育施設「京王ジュニアプラッツ」を開設しました。

さらに2012年1月、既存建物に新たな価値を付加し再生させるリノベーション事業を手がけている株式会社リビタが京王グループに加わりました。リノベーションは廃棄物量を抑え、環境負荷が低い将来的にも有望な開発手法ですが、この住宅再生をさらに活用し、今後より強く求められる地域・多世代コミュニケーションの活性化など、新たな暮らし方やライフスタイルを提案していきたいと考えています。また、シニア層の住まい方の選択肢を増やし、沿線に住み続けられる一助となるよう介護付有料老人ホーム「アリスタージュ経堂」が8月に開業しました。

これからも企業としての社会的責任を果たし、京王グループの経営理念である「信頼のトップブランド」の確立を目指して、あらゆる世代の皆様の幸せな暮らしの実現と沿線の活性化に寄与していきます。

# 特集 1

## 京王グループはさまざまな省エネルギー施策に取り組んでいます

鉄道は、エネルギー効率の優れた交通機関です。京王グループは、鉄道の安全性・快適性を高めるとともに、さらなる省エネルギーを進めることで、より環境にやさしい交通機関を目指しています。また、バスやタクシーの省エネルギー施策にも積極的に取り組んでいます。



### 電車で使う電気を“省エネ”する

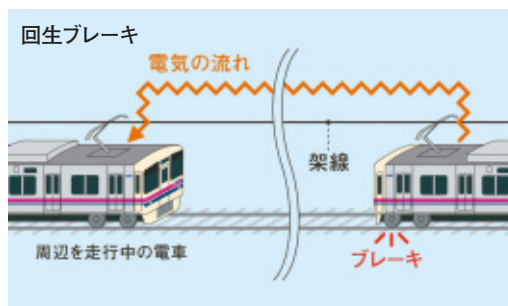
#### ■ 消費電力量を約45%削減。大手民鉄で初めて、回生ブレーキ搭載のVVVFインバータ制御電車化率が100%となりました

京王では、電車の走行用電力が消費電力の大半を占めることに着目し、電車の走行用電力の削減を積極的に推進してきました。

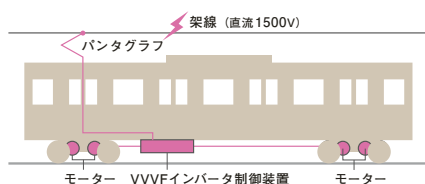
電車がブレーキをかけた際にモーターを発電機として作動させ、発生した回生電力をパンタグラフを介して架線に戻す「回生ブレーキ」は1966年度より導入を開始し、1998年度には全車両への搭載を完了しました。回生電力は周辺を走行する電車が利用しています。

また電車の加速力や速度などに応じて電圧や周波数を変化させながらモーターを効率よく動かす「VVVFインバータ制御装置」は、1991年度から導入を開始し、2012年度には大手民鉄で初めて全車両がVVVFインバータ制御電車となりました。

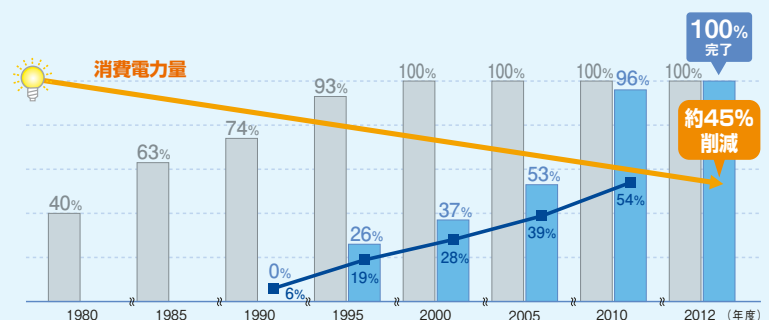
「回生ブレーキ」と「VVVFインバータ制御装置」の導入により、消費電力はこれらの装置が導入される前の車両と比較して約45%の削減となりました。



VVVFインバータ制御装置



回生ブレーキ・VVVFインバータ制御装置の整備率と消費電力量の推移



京王電鉄の整備率  
■ 回生ブレーキ ■ VVVFインバータ制御装置 ■ VVVFインバータ制御装置の大手民鉄16社平均整備率

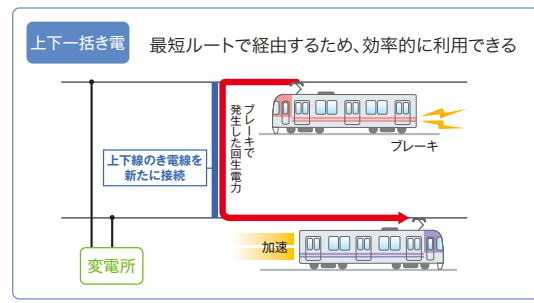
## ■ 回生電力のさらなる有効活用を支援する「上下一括き電」を、井の頭線に導入しました

上り電車への電気供給線(き電線)と下り電車への電気供給線を結ぶ電線を設け、変電所を経由しなくても上下電車間で回生電力のやりとりを可能とし、その距離を短くする

ことで電力の損失(距離が長いほど大きい)を低減させる「上下一括き電」方式を2011年度、井の頭線に導入しました。



上下一括き電の概要



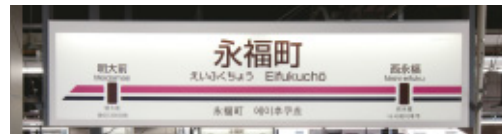
## 施設で使う電気を“省エネ”する

### ■ 照明や空調の高効率化を進めています

駅構内の照明や案内看板などに、蛍光灯と比べて消費電力を大幅に抑えられるLED照明や高効率照明の導入を進めています。また、地下駅に高効率空調システムの導入を進めています。

### ■ 使う電気を節約する工夫をしています

駅や車両基地に太陽光発電システムを導入しています。また、一部のホームやコンコースなどに、自然採光の屋根を採用しています。



省電力型案内看板



駅構内のLED照明



客室内のLED照明



太陽光発電システム



自然採光の屋根

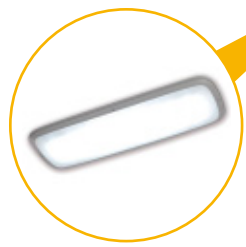
## バスやタクシーでも“省エネ”する

### ■ バス

2012年度から路線バスの車内にLED照明の導入を開始しました。

### ■ タクシー

ハイブリッド車や電気自動車を導入し、エネルギーの効率的利用に取り組んでいます。



車内のLED照明



ハイブリッド車



電気自動車

## 特集2

お客さまに安全・安心を。  
さまざまな災害・事故対策を推進しています

京王電鉄は、1日約171万人のお客さまにご利用いただいています。お客さまの安全を第一に、地震や各種鉄道事故を想定した訓練や、24時間体制の地震監視などを実施しています。



### 災害・事故発生時の対応力を強化する

#### ■ 電車は自然災害のレベルに応じて安全な速度で運行または安全な場所に停車します

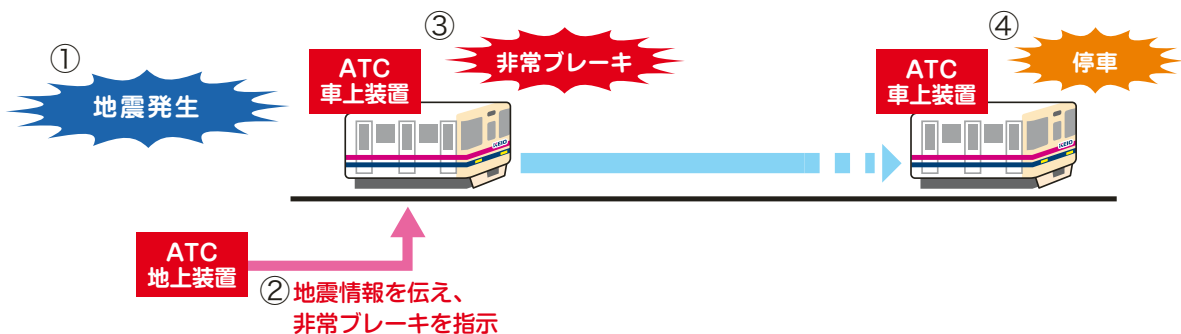
沿線の気象情報など（震度・風速・雨量・水位）を24時間体制で監視しています。営業運転中に自然災害が発生すると、レベルに応じた速度規制を行います。

地震については、沿線11カ所に地震計を設置するとともに、気象庁の「緊急地震速報」を活用した早期地震警報システムを導入し、運輸指令所などにおいて24時間体制で監視し

ています。沿線で震度4以上の地震が発生または予測される場合には、自動的に全列車に警報を通知し、ただちにATC（自動列車制御装置）によって列車を安全な場所に停車させます。その後、地震の発生状況に応じて、線路等鉄道施設の点検など、運転再開に向けた復旧作業を行います。



#### ■ ATC (自動列車制御装置) による地震発生時の停車の仕組み





### ■ 鉄道施設の耐震補強を推進しています

京王電鉄では、1995年に発生した阪神・淡路大震災の翌1996年度までに緊急耐震補強を完了していますが、新たな



銅板巻きによる高架橋柱耐震補強

耐震基準に見合う構造物とするために、引き続き高架橋柱・ずい道などの耐震性向上策を行っています。



鋼柱増設によるずい道耐震補強

### ■ 自治体・消防署・警察署と連携した「総合防災訓練」を定期的を実施しています

京王電鉄では、さまざまな鉄道事故を想定し、列車の減速運転や情報伝達、負傷した方の救出や救護、お客さまの避難誘導などを行う総合事故復旧訓練を、消防署・警察署と連携して定期的を実施しています。



各種防災訓練を定期的を実施

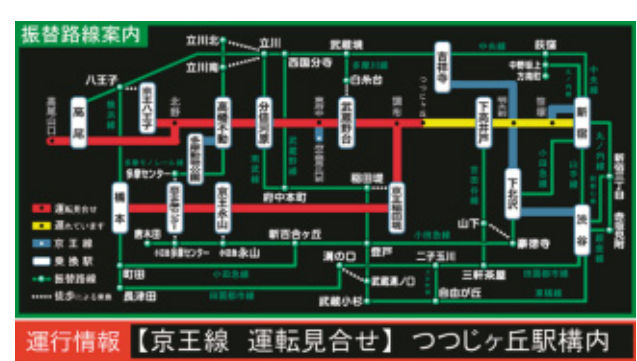
### ■ よりきめ細かくお客さまに鉄道運行情報をお届けしています

ダイヤ乱れなど、列車の運行に支障が生じた場合、文字情報・音声・路線図のいずれか、または組み合わせにより、お客さまに分かりやすく鉄道運行情報をお届けしています。

文字情報については、ホームに設置の「行先案内板」、車内に設置の「案内表示器」のほか、ご登録いただいたお客さまの携帯電話への「鉄道運行情報メール配信サービス」、ツイッターでの情報提供を行っています。

路線図については、文字情報とともに、改札付近に設置の大型液晶モニター「お客様案内ディスプレイ」および京王ホームページにて提供しています。

また、ディスプレイなどに表示される文字情報は、音声に変換され全駅で放送しています。



運行情報【京王線 運転見合せ】つつじヶ丘駅構内

お客様案内ディスプレイ(運行支障時表示例)

## 特集3

# 未来を担う子どもたちに新しい体験の場を提供しています

京王グループは、長い歴史を持つ高尾山薬王院や、沿線地域で事業を展開する京王グループ各社の職場を舞台に、子どもたちに新しい体験のチャンスを提供しています。自然体験や職場体験を通じて、自然や仲間に対する思いやりや、社会に対する広い視野を持った子どもたちが増えてほしいと考えています。



## 高尾山を舞台に 160名の小学生が修行体験をしています

高尾山薬王院は、天平16年(744年)に、聖武天皇の勅令により東国鎮守の祈願寺として開山されました。古来、高尾山は修験道のお山といわれており、「琵琶滝」と「蛇滝」の2つの滝は、現在も滝修行の道場として一般の方にも門戸を開いています。

京王電鉄は、高尾山薬王院が実施している「信徒峰中(ぶちゅう)修行会」を子ども向けにアレンジして、1970年より小学3年生～6年生向けの修行体験合宿を開催しています。2012年8月1日～2日、5日～6日に開催した「第40回高尾山峰中修行体験合宿」には、合計160名の小学生が参加し、豊かな自然に囲まれた高尾山の自然観察や、護摩、座禅、法話、写経、水行といった修行を、2日間にわたって体験しました。



水行の様子

### 【行程概要】

#### 1日目

- 9:00 高尾山口駅集合・受付・出発式
- 10:40 高尾山薬王院到着
- 11:35 自然観察ラリー(山頂～もみじ台)
- 16:20 入浴、夕食
- 19:00 班対抗ゲーム大会
- 21:30 消灯・就寝

#### 2日目

- 5:00 起床
- 5:30 護摩・座禅
- 7:00 朝食
- 8:00 法話・写経・感想文作文
- 10:45 琵琶滝へ向けて出発
- 12:00 昼食
- 12:30 琵琶滝到着、入滝(希望者のみ)
- 14:05 高尾山口駅到着・解散式



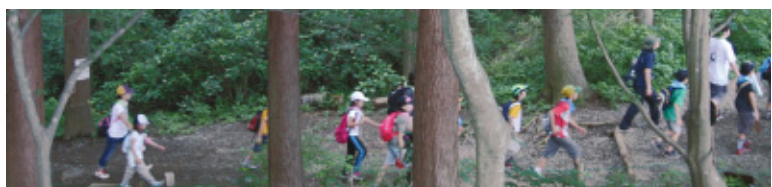
座禅修行



写経修行



集合写真



自然観察ラリー

**ごまたき**

(小学6年生・男子)

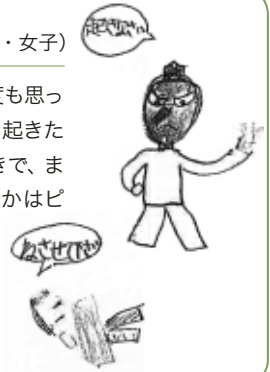
「火がすごい!!」寺のまん中で、火がパチパチと、うなっています。そのしゅぎょうは、ごまたきしゅぎょう。おぼうさんの声は、すごくふしぎな声でひびいてきました。「ほらぶえ」は、まちかで聞くと「ブオ～」と低い音や、「ブオ～」と高い音があって、「はくりよくあるな～」と思いました。しぜんがいっぱいあって楽しかったです。



**ねむいよ～**

(小学5年生・女子)

ね・む・いっ! 本でんに行くときに何度も思った。ごまをたいたときのたいこの音で起きたと思ったら、ざぜんの静かなふんいきで、また、ねむ気がおそってくる。でも背なかはピシッと伸びて、体は起きていたみたい。高尾山の空気がおいしすぎて、その空気をすいながら、まだまだねたかったのかな、わたし。



**グループ各社の職場でおしごと体験をしています**

京王グループは、京王電鉄、京王電鉄バス、京王百貨店、京王プラザホテル(新宿)など、グループ各社のさまざまな職場を舞台に、2009年から夏休み期間中に「京王キッズおしごと隊」を開催しています。

2012年7月23日～8月26日には、京王グループ13社が電車の乗務員、パン屋、ホテルなど16のプログラムを設け、小学生とその保護者の247組を募集しました。仕事

の実体験を通じて、京王グループへの理解を深めていただくとともに、仕事や社会の仕組みについて学んでいただきました。また今回は、京王電鉄(乗務員業務、電車の整備)、京王ストア(スーパーマーケット)などのプログラムが新たに加わりました。今後も子どもたちの将来に役立つプログラムを目指して、継続していきます。



乗務員のおしごと



電車の仕組みを学ぶ



百貨店のおしごと



パン屋さんのおしごと



お花屋さんのおしごと



ホテルのおしごと

**【2012年開催の京王キッズおしごと隊概要】**

京王電鉄	駅のおしごとを体験しよう!	京王食品	オリジナルパンを作ろう!
	電車の乗務員のおしごとを体験しよう!	京王グリーンサービス	お花屋さんになって花束を作ろう!
	電車の仕組みを知ろう!	京王不動産	家づくりを学ぼう!
	電車の整備のおしごとを知ろう!	京王プラザホテル(新宿)	ホテルのおしごとを体験しよう!
京王電鉄バスグループ	バスのおしごとを体験しよう!	京王エージェンシー	カメラマンになってスタジオで撮影しよう!
京王百貨店	百貨店でプレゼント包装をしよう!	京王レクリエーション	ゴルフ練習場のおしごとを体験しよう!
京王ストア	スーパーのおしごとを体験しよう!	京王設備サービス 杉並公会堂	最高級のコンサートホールでおしごとを体験しよう!
京王書籍販売	本屋さんのおしごとを体験しよう!	京王子育てサポート	保育士さんになって一緒に遊ぼう!

## 特集4

# 生物多様性の保全に取り組んでいます

京王グループは、東京都心部と自然豊かな多摩地区を結ぶエリアで、事業を展開しています。自然と共生する社会づくりに向けて、高尾山エリアを中心に、生物多様性に富んだ森づくりの支援や、子どもたちの環境教育、生態系調査に取り組んでいます。

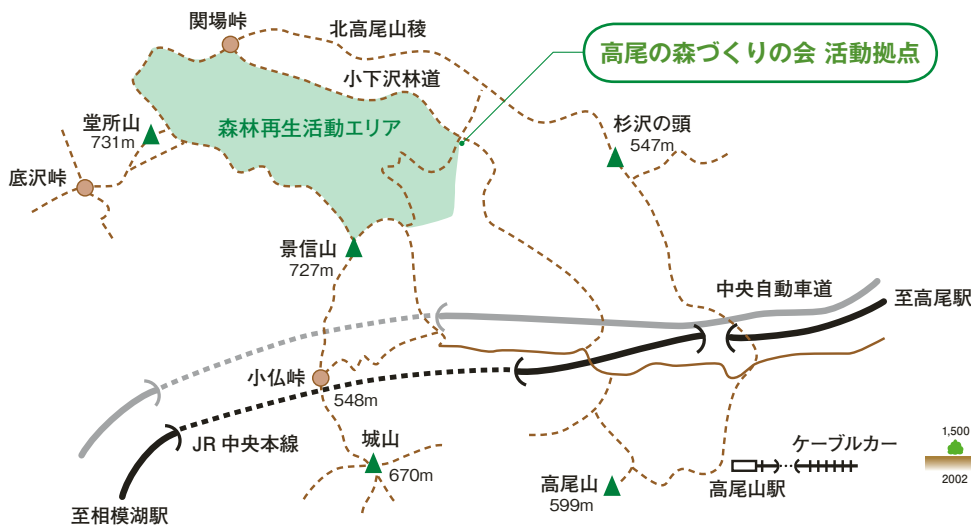


## 社員も参加し、2002年から継続的に植樹活動をしています

高尾山(599m)は、暖帯系の常緑広葉樹林と温帯系の落葉広葉樹林の境目にあたることから、植物や鳥の種類が多様性に富んでいることで知られています。一方、裏高尾と呼ばれる景信山(727m)は、江戸時代から建築用に杉や檜などの植林が進められた人工林です。

京王グループは、2002年から11年間にわたって、公益財団法人日本山岳会「高尾の森づくりの会」が、裏高尾(小下沢国有林)で行う森林再生活動を支援してきました。この活

動は、杉や檜の代わりに高尾山本来の生態系に配慮した落葉広葉樹を植えることで、多様な動植物が棲息する「風景林」の再生を目指しています。2012年の「第12回植樹祭」には、カエデ、ヤマザクラ、コナラ、カツラ、イロハモミジなど25種類の広葉樹の苗木700本を提供しました。京王グループ社員は、植樹祭への参加をはじめ、地ごしらえ、間伐、歩道整備、下草刈りなど、毎月1回の定例作業にも参加しています。



集合写真



植樹の様子

## 自然の大切さを親子で学ぶ体験スクールを開催しています

京王グループは、森林再生活動を実施している裏高尾（小下沢国有林）を舞台に、春と秋の「高尾の森 親子森林体験スクール」を開催しています。このスクールは、森林での作業体験や野外活動を通じて、未来を担う子どもたちに、森を「つくり」「育てる」ことの大切さを学んでいただくことを目的としています。2012年春の第9期スクールには、小学4年生～中学3年生のお子さまと保護者の方16組37名が参加し、植樹や下草刈り体験、植物や水生生物の観察など、自然との触れ合いを通して森の大切さを学びました。



植物観察

高尾の森 親子森林体験スクール 参加者の声



これからも、豊かな森、豊かな心が育ちますように。

舟山 典子さん

傾斜の強い場所での作業は、親子とも慣れるまでは大変でした。山での作業を体験することによって、日常生活では忘れがちな大切なことに気づかされます。人間も自然の中で生かされている存在であること、木々も草花も昆虫も小動物もかけがえのない命だということに。

自然を思う気持ちを大きくしていこうと思います。

舟山 凜太郎さん（小学6年生）

水がきれいだなあ、自然が豊かだなあなど、思ったことはたくさんありました。その中でも一番思ったのは、生き物の知識が増えたことと、自然を大切に思う気持ちが大きくなったことです。これからも、たくさん体験をして、自然を思う気持ちを大きくしていこうと思います。

## 高尾の森わくわくビレッジの敷地内で生態系調査とビオトープの改修を行っています

高尾の森わくわくビレッジでは、2010年秋から2011年夏にかけて年4回、公益財団法人日本生態系協会の協力を得て敷地内での動植物生態系調査を実施しました。調査の結果、東京都南多摩地域レッドリストに選定されている希少種をはじめ、地域の多様な動植物の生育・生息地となっていることが確認されました。

また、同協会監修のもと、敷地内の生物多様性の質をより高め、自然学習の場として整備していくために、2005

年の開業時にビオトープとして整備した池の改善に着手しました。繁茂している要注意外来生物のオオカナダモを除去し、地域の水辺に本来生えている水生生物を導入することで、自然植生への転換を図っていきます。今後は、池周辺で見られる動植物の生息環境を確保しながら、これを素材とした環境教育プログラムを来館者に提供していきます。



敷地内に入ってきたホンダタヌキ



南多摩地域では希少種のシュレーゲルアオガエル

## 社員一人ひとりが、「信頼のトップブランド」を目指します

京王グループは、グループとしての存在意義を明文化した「京王グループ理念」において「信頼のトップブランド」になることを宣言しています。あわせて「京王グループ行動規範」において、「信頼のトップブランド」になるため、企業活動を通じて社会に貢献すること、事業に関わるすべてのステークホルダーを尊重すること、環境保全に取り組むことなど、企業の社会的責任（CSR）を果たしていく意思を表明しています。今後も、京王グループが長年培ってきた有形・無形の経営資源を維持・活用し、さまざまな施策に取り組むことで、社会から信頼されるブランドを築いていきます。

京王グループとのつながり



### 京王グループ 理念

私たち京王グループは、  
つながりあうすべての人に誠実であり、環境にやさしく、  
「信頼のトップブランド」になることを目指します。  
そして、幸せな暮らしの実現に向かって  
生活に溶け込むサービスの充実に日々チャレンジします。

2003年1月1日制定

### 京王グループ スローガン

あなたと あたらしい あしたへ —— 京王グループ

## コーポレート・ガバナンスと内部統制

### 基本的な考え方

「京王グループ理念」に基づき、つながりあうすべてのステークホルダー\*からの信頼を得て、企業価値向上を実現するため、コーポレート・ガバナンスの充実、強化に取り組んでいます。

\*ステークホルダーとは、お客さま・株主さま・取引先・社員などの関係者、つまり京王グループとつながりあうすべての方々のことです。

### コーポレート・ガバナンス体制

取締役会は社外取締役2名および主要なグループ会社の社長など8名を含む18名で構成し、経営上の重要な事項についての決議や業務執行の監督を行うほ

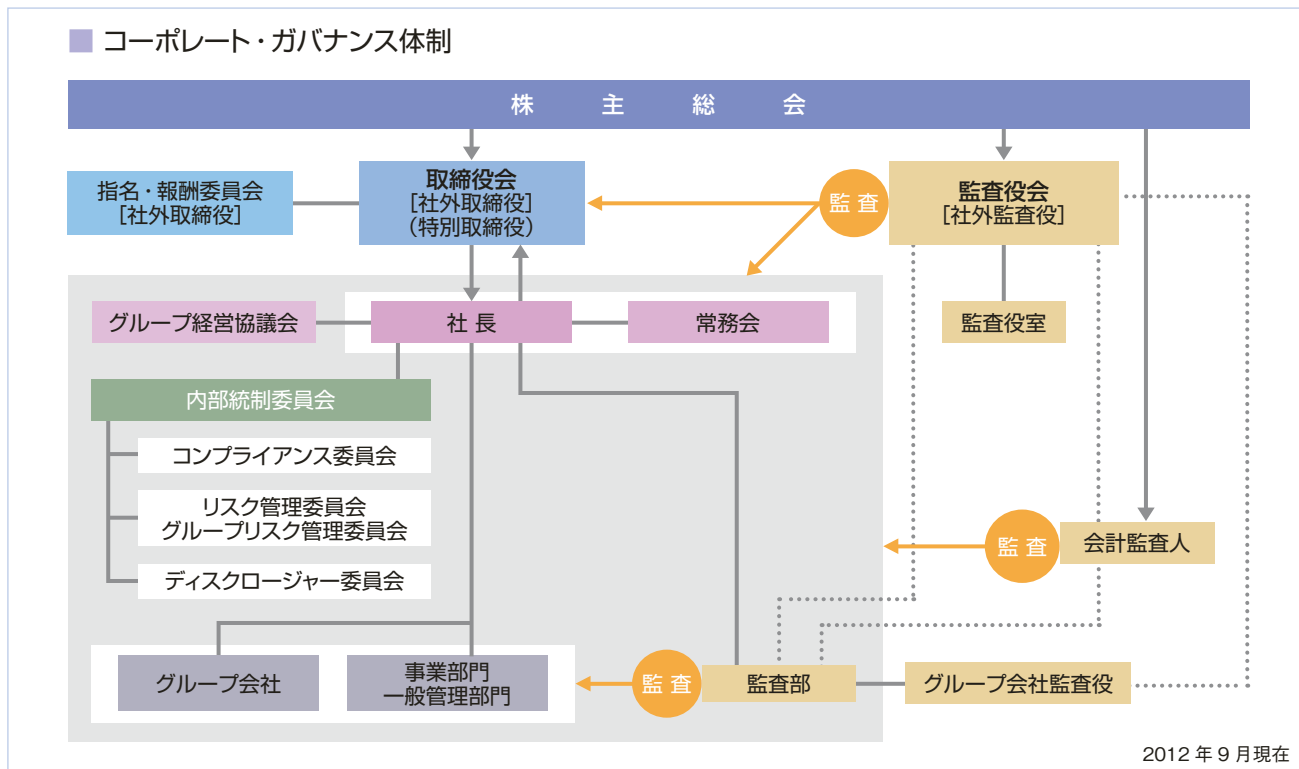
か、特別取締役を選定し、時機を捉えた迅速な意思決定を行っています。また、取締役会の諮問機関である指名・報酬委員会において役員の人事・報酬について審議し、経営の透明性向上を図るなど、ガバナンス体制の充実に努めています。さらに、グループ経営協議会、京王グループ社長会を定期的で開催し、グループガバナンス強化にも積極的に取り組んでいます。監査役会は、社外監査役3名を含む4名で構成しています。監査役は監査役会で定めた基本方針に基づき取締役の職務執行の監査を実施するほか、重要な会議での意見陳述などを行います。

## 内部統制システムの強化

京王グループは「信頼のトップブランド」を確立するため、内部統制システムの強化に努めています。

当社は会社法に基づき「京王グループ内部統制システムに関する基本方針」を定めており、当社取締役会は

その整備状況を確認・検証し、必要に応じた見直しを行っています。また、内部統制に関する組織や機能を統括するための内部統制委員会を設置しているほか、財務報告に関わる内部統制についても責任部署を設けて京王グループ全社で整備・運用を進めています。



## コンプライアンス

### 基本的な考え方

京王グループにとっての「コンプライアンス」とは、「法令遵守にとどまらず、社会の規範やルールまで含めて遵守することで、社会の期待に応える」ことであると考えています。

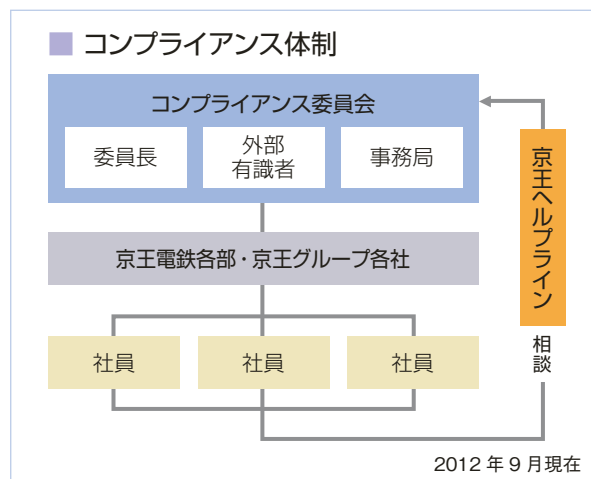
コンプライアンスに取り組むことにより、不祥事の起きにくい風土をつくり、誠実な企業としてお客さまや社会から一層の信頼を獲得したいと考えています。

員が就き、その諮問機関としての外部有識者（弁護士・会計士など）を置いています。事務局は、当社の総務法務部と広報部が務めています。

### コンプライアンスの体制

京王グループでは、「京王グループ行動規範」を定め、グループ全体に浸透させ、継続的に取り組んでいくため「コンプライアンス委員会」と「京王ヘルプライン」からなる「コンプライアンス体制」を構築しています。

「コンプライアンス委員会」は、委員長、外部の有識者、事務局で構成され、委員長には総務法務部分担役



## ヘルプラインの運営

業務に関するコンプライアンス上の疑問を抱いている社員が上司に相談できない場合、身近に相談できる窓口として「京王ヘルプライン」（社内窓口：当社総務法務部、社外窓口：弁護士事務所）を設けています。このヘルプラインは、グループ全社員はもとより、京王グループのお取引先企業で働く方も利用できます。またヘルプラインの周知を図るため、連絡先や仕組みを明記した「ヘルプラインカード」を全社員に配布しています。このヘルプラインの運用により、京王グループのコンプライアンス上の問題の早期発見と解決につなげています。

## 主なコンプライアンス推進活動

### 「京王グループ行動規範」の浸透

「京王グループ行動規範」の浸透を図るため、「京王グループ行動規範」に基づく具体的な行動について、身近な事例を簡潔な文章とイラストで解説した「京王グループコンプライアンスブック」を発行・配布し、社員の知識と意識向上のための継続的な取り組みを実施しています。



京王グループ  
コンプライアンスブック  
(第三版)

### コンプライアンス意識の啓発

当社および京王グループ各社の実務担当者向けに、コンプライアンスに関わるテーマについての講習会を実施するとともに、コンプライアンス関連の情報発信を行うことにより、継続的な啓発を図っています。

### コンプライアンスアンケートの実施

2012年8月には、当社の全社員を対象とした「コンプライアンスアンケート」を実施しました。今後、アンケートの結果から明らかになった課題に対する改善策を実施し、社員のさらなるコンプライアンス意識の向上を図っていきます。

### 個人情報保護の取り組み

京王グループは、個人情報の安全対策のため、「京王グループ個人情報保護方針」を定めるとともに、京王グループ各社において管理体制の強化を図ってきました。また、「京王グループ個人情報ハンドブック」の発行・配布や教育研修など、社員の知識と意識向上のための取り組みを継続的に実施しています。



京王グループ  
個人情報ハンドブック  
(第二版)

## 京王グループ 行動規範

「信頼のトップブランド」になるため、私たちは以下のとおり行動します

### 企業活動を通じて社会に貢献します

- お客様の幸せな生活に資する商品・サービスを提供します
- 常に商品・サービスの品質、安全性の向上を追求します
- 適時適切な情報開示に努めるとともに、お客様の声を事業活動に活かします

### 法令・社内規程を遵守し、健全・公正な企業活動を行って、企業価値の向上に努めます

- 全てのステークホルダー（お客様・株主・取引先・社員などの関係者）に対して、相互に適正な利益を確保できるよう互いを尊重します
- 法令を正しく理解し、法令に則った手続きを行うことで、公的機関等と適切な関係を維持します
- 反社会的な組織、人物に対しては断固とした姿勢で臨みます
- 知的財産や情報の取扱いに細心の注意を払います
- 社員個人の権利を尊重し、社員同士が信頼しあえる風通しの良い職場づくりをします

### 社会の一員としての責任を果たします

- すべての人にやさしい環境づくりを進めます
- リサイクル、省エネなど環境保護に積極的に取り組みます
- 社会に貢献し、社会と共に発展するための活動に取り組みます
- 社会の変化に対応し、よき企業市民であるためのチャレンジをしつづけます



# リスクマネジメント

## 基本的な考え方

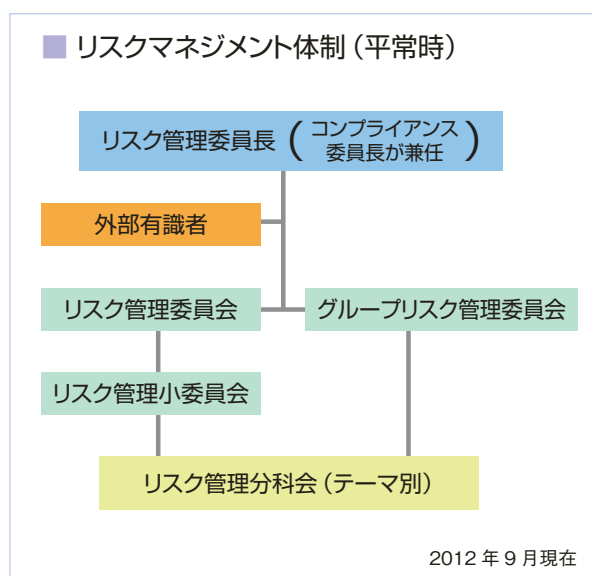
鉄道事業を中心に企業活動を展開している京王グループでは、「お客様の安全」をリスク対策における最重要課題と認識しています。そのため各種リスクの低減および発生防止を目的とした体制を整備し、京王グループの理念である「信頼のトップブランド」にふさわしいリスクマネジメントを実践することが必要です。

## リスクマネジメントの体制

京王グループのリスクマネジメント体制は、平常時の体制と危機発生時の体制の2つからなっています。

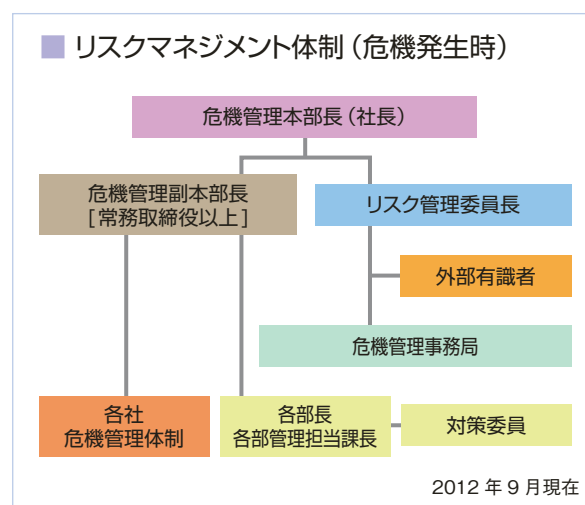
### 平常時の体制

当社の部長で構成する「リスク管理委員会」と、京王グループの主要会社の社長で構成する「グループリスク管理委員会」があり、ともにリスク管理委員長のもとで定例会議を開催し、リスク対策重点項目の設定や、リスク対策の実施状況の確認、リスクマネジメントに関する活動報告などを行っています。リスク管理委員長は、コンプライアンス委員長が兼任し、コンプライアンスと表裏一体のものとして運営するとともに、リスクマネジメント活動について、コンプライアンスの視点からもチェックしながら推進する仕組みをとっています。このほか、「リスク管理小委員会」、「リスク管理分科会」などの組織を持ち、平常時のリスク対策を実効的に行えるようにしています。



### 危機発生時の体制

危機への速やかな対応のため、当社社長を本部長とする臨時組織「危機管理本部」を設置するとともに、常務取締役以上の役員1名を危機管理副本部長とし、リスク管理委員長と危機管理事務局が活動をサポートします。また、京王グループ各社で発生した危機のうち、重大なものについてはグループ各社の危機管理体制と当社内に設置する危機管理本部が一体となって対応します。



## 主なリスクマネジメントの推進活動

### 重要リスクの抽出・低減・防止

各種リスクの発生頻度およびそのリスクが発生した場合の影響度を分析した「リスクマップ」により、優先的に対応すべきリスクを把握しています。「自然災害による支障発生への対応」「情報セキュリティ対策の強化」などをリスク対策重点項目に選定し、全社的な対応策を実施しています。

### 事業継続計画 (BCP) の取り組み

リスクマネジメントの一環として、2008年度に「地震などの大規模災害発生時」「新型インフルエンザの発生時」に対する「事業継続基本方針」を策定しています。

2011年3月の東日本大震災の発生後、今後発生が予想される首都直下地震に備え、より実効性の高い事業継続計画への見直しを行っています。

## 安全性の向上を目指し、日々改善を積み重ねてまいります

日頃から京王線、井の頭線をご利用いただきまして、ありがとうございます。

当社では、『信頼のトップブランド』を目指し、「住んでもらえる、選んでもらえる沿線づくり」を進めておりますが、特に鉄道事業においては、「安全は最大の使命であり、最高のサービスである」旨を、組織全体に浸透させるとともに、ハード面では、調布駅付近の連続立体交差化や信号システムのATC化、耐震性向上を進めるなど、ソフトとハードの両面から鉄道事業部門の総力を結集し取り組んでいるところです。

また、安全の根幹は人であることから、この9月には、「安全に関する基本方針」と「安全に係る社員の行動規範」を改正するなど、社員相互のコミュニケーションを深め、モチベーションの高い組織風土づくりに取り組んでいます。

来年2013年には、京王線開業100周年を迎えます。次の100年も当社線が皆さまの生活にとってなくてはならないものであり続けるために、安全性の向上を目指して日々努力してまいります。



常務取締役  
鉄道事業本部長(安全統括管理者)  
高橋 泰三



職場巡視風景

# 輸送の安全確保に関する基本的な方針と安全重点施策

## 安全に関する基本方針

当社では、「『安全』は最大の使命であり、最高のサービスである」との信念のもと、運輸安全マネジメントを推進し、輸送の安全性向上に向けて継続的に取り組んでいます。鉄道事業における安全の確保は、京王グループの基軸であり、グループ理念における「信頼のトップブランド」の実現に向けて、社員一人ひとりの意識の向上を図るため、基本的な方針を具体的に定めています。今年度、今までのトラブルや、東日本大震災で得た経験や教訓をもとに、新たな「安全に関する基本方針」「安全に係る社員の行動規範」を制定し運輸安全マネジメントで求められている「継続的改善」を進めます。

### 安全に関する基本方針

- ・「安全」は最大の使命であり、最高のサービスである。
- ・全社員が一丸となり継続的改善に取り組み、安全最優先の鉄道を創る。

### 安全に係る社員の行動規範

- ・全てにおいてお客さまの視点に立ち、安全確保を第一に行動する。
- ・社員一人ひとりがルールを遵守し、判断に迷ったときは、自ら考え、最も安全と認められる行動をとる。
- ・情報伝達は迅速かつ正確に行い、共有化を図る。
- ・組織・職位を越えたコミュニケーションを構築し、全社員が連携して問題解決にあたる。

## 2012年度安全重点施策

2011年度の安全重点施策の実績を踏まえ、2012年度は次の項目について重点的に実施します。

### ソフト面

- (1) 社会的使命の再確認および本社と現業間のコミュニケーションの深耕
- (2) ヒューマンエラーの克服およびシステムエラーの原因究明・対応
- (3) 報告システムの改善および人材育成

### ハード面

- (1) 信号システムの全線ATC化完了、調布連立における地下線切替、耐震補強の進捗など、中長期施策の確実な推進
- (2) 老朽更新の着実な実施、減災対策の推進など、安定した鉄道システムの維持・構築
- (3) ホームドアの設置、ホームへの内方線点状ブロックの敷設など、社会的要請への対応
- (4) 笹塚以西の鉄道立体化の事業化に向けた手続きの推進、体制整備など、鉄道事業の将来ビジョンの創出

## 2012年度安全スローガン



### 「安全は 目配り 声かけ 思いやり」

安全意識の一層の浸透を図るため、初めて社内公募により安全スローガンを設けました。

## 2011年度安全目標

2011年度は安全目標を「ゼロからの積み重ねを継続」と定め、2010年度下期からの取り組みをさらに強力に推進してきました。鉄道事業における安全の確保は京王グループの基軸であり、グループ理念「信頼のトップブランド」を実現するための最も優先すべき課題として再認識し、ヒューマンファクターを重視した安全マネジメント体制の確立により、さらなる安全文化を構築し、信頼と誇りを取り戻す取り組みを進めてきました。

## 2011年度安全重点施策

### 1. さらなる安全性の向上による信頼の回復

- (1) 組織体制の強化
- (2) 保安設備の強化
- (3) 人材の確保と育成

### 2. 故障や災害などのリスク対策の継続的实施

鉄道の安全に対するお客さまからの信頼の回復を目指し、安全確保が可能な組織・要員体制の確立や組織風土の改善など各種の安全対策に取り組みました。



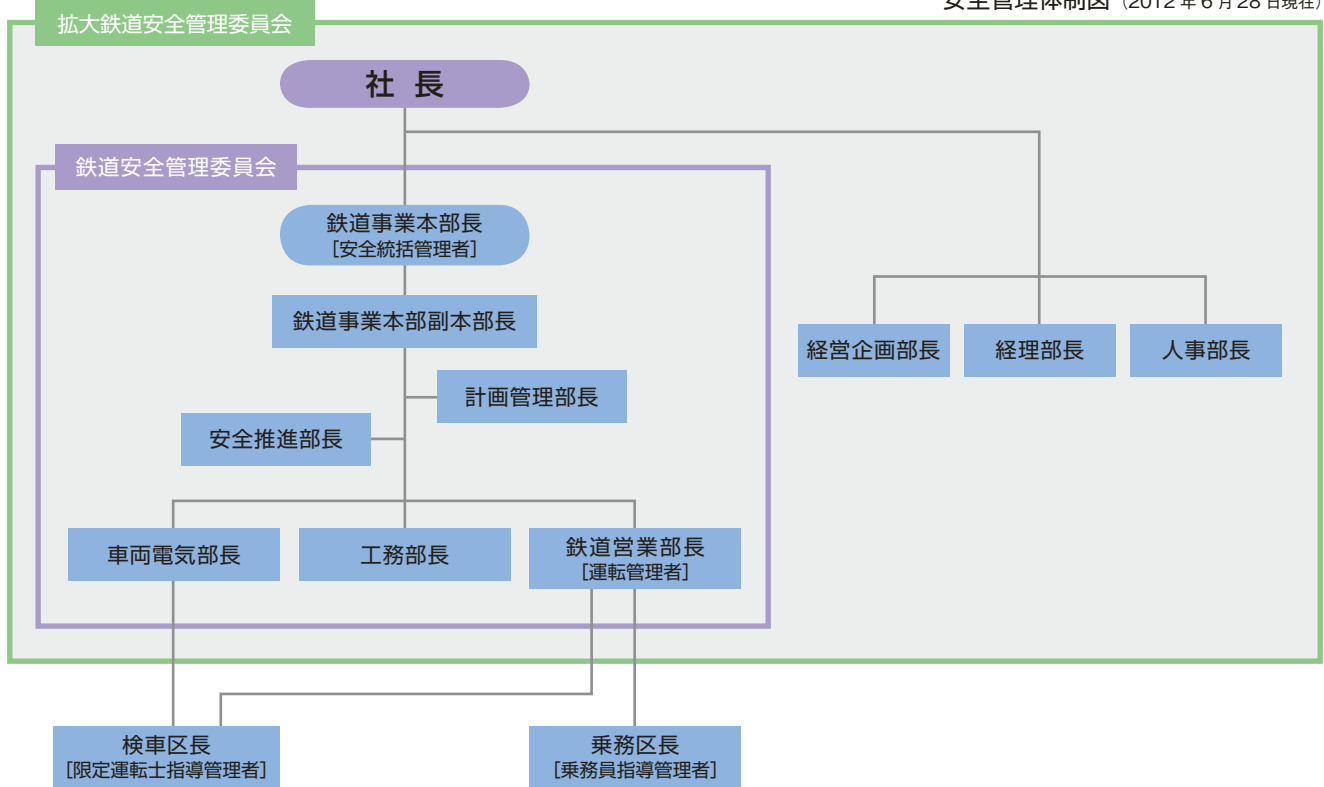
社長による職場巡視

# 安全管理体制と安全管理方法

## 安全管理体制

当社では、安全管理体制を下の図のとおり構築しています。

安全管理体制図 (2012年6月28日現在)



責任者名	役割
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括し、鉄道事業本部長を充てる。
運転管理者	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括し、原則として鉄道営業部長を充てる。
乗務員指導管理者	運転管理者の指揮の下、運転士の資質の保持に関する事項を管理し、乗務区長を充てる。
限定運転士指導管理者	車両電気部長および運転管理者の指揮の下、限定運転士の資質の保持に関する事項を管理する。
鉄道事業本部副本部長	安全統括管理者を補佐する。
計画管理部長	輸送の安全確保に必要な設備投資に関する事項、収支に関する事項および要員に関する事項を統括する。
安全推進部長	安全統括管理者の指揮の下、輸送の安全の確保に関する体制および事故防止に関する事項を統括する。
工務部長	安全統括管理者の指揮の下、土木施設に関する事項を統括する。
車両電気部長	安全統括管理者の指揮の下、電気施設に関する事項および車両に関する事項を統括する。
経営企画部長	会社全体の視点から輸送の安全確保に必要な投資に関する事項を統括する。
経理部長	会社全体の視点から輸送の安全確保に必要な収支に関する事項を統括する。
人事部長	会社全体の視点から輸送の安全確保に必要な要員に関する事項を統括する。

## 安全管理方法

### ■ 鉄道安全管理委員会

安全統括管理者を中心に、運転管理者を含む鉄道事業本部の各部長がメンバーとなり、月に1回定期的に開催し、事故原因の究明・事故対策の検討等を行っています。

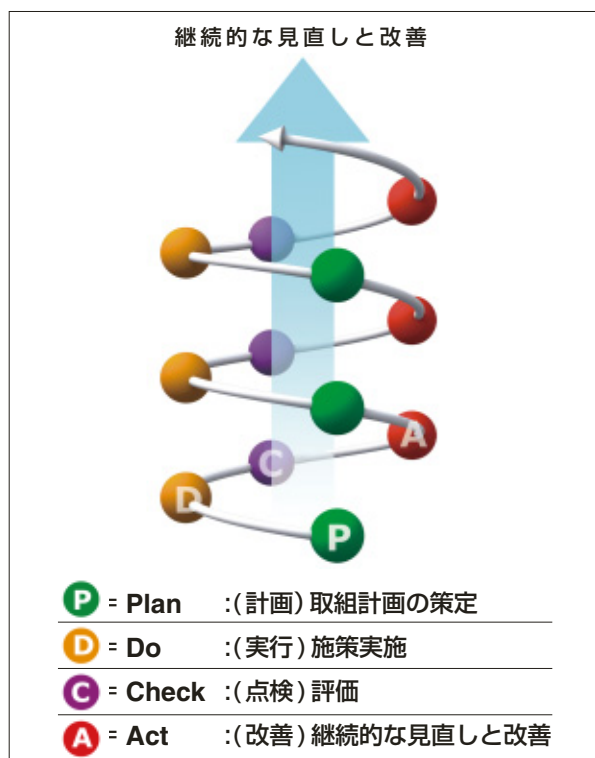
また、拡大鉄道安全管理委員会を年に2回開催し、社長出席のもと、鉄道の安全性向上のための重点施策やその他、安全管理体制全般の実施状況の評価に関する事項の検討等を行っています。

#### ● 主な検討事項

- 事故発生時の再発防止策の検討
- 事故の芽情報の検討
- 鉄道運転事故等報告書 / 届出書
- 動力車操縦者資質管理報告書提出内容の協議
- 内部監査の計画および結果報告

### ■ PDCA サイクル

鉄道安全管理委員会を中心にして、計画 (Plan) → 実施 (Do) → 評価 (Check) → 見直し・改善 (Act) サイクルに沿って、報告・検証、安全性向上を図っています。



「運輸安全マネジメント」PDCA サイクル図

### ■ 事故の芽情報 (ヒヤリハット)

「鉄道輸送に支障を及ぼす恐れのある事柄」や「事故には至っていないが事故につながる可能性があった事柄」を「ヒヤリ・ハット」情報として幅広く収集し、分析・評価を行ったうえで、鉄道安全管理委員会において報告するなど、事故の未然防止に向け取り組んでいます。報告された案件について、現場にフィードバックすることで情報の共有化を図り、安全性の向上に役立てています。

### ■ 緊急時対応体制

鉄道運転事故や自然災害の発生に備え、社内規程類を整備し、緊急時対応体制を構築しています。大規模事故や自然災害が発生すると、これに基づき対策本部を設置して、緊急・応急・復旧対策にあたります。

### ■ 経営トップによる職場巡視

毎月行われている「安全再確認の日」や夏季の安全輸送推進運動および年末年始の安全総点検を中心に、社長をはじめとする役員が現場を巡視して安全管理の状況を確認するとともに、現業職員との意見交換会を実施してコミュニケーションを図っています。



社長による職場巡視

### ■ 内部監査の実施

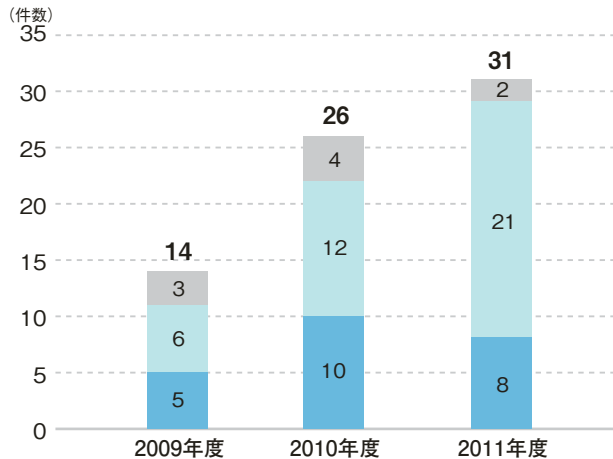
内部監査員としての講習を修了した監査員による内部監査を毎年行い、安全管理体制が適正に機能していることを確認しています。社長、安全統括管理者ならびに鉄道事業本部の部長・課長および現業の管理職に対してインタビューや書類検査などによる監査を行い、監査で見出された事項については、鉄道安全管理委員会に報告され、共有化されています。

## 輸送の安全の実態

不測の事故や災害の発生時には、速やかに復旧作業を行うとともに、事故や災害の原因を調査・分析し、再発防止措置を講じています。2011年度の事故・インシデントの発生状況は次の通りです。

### 事故・インシデント等の発生状況と再発防止措置

#### 〔事故・インシデントの発生状況〕



#### ・鉄道運転事故とは

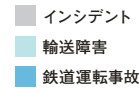
「列車衝突事故」「列車脱線事故」「列車火災事故」「踏切障害事故」「道路障害事故」「鉄道人身障害事故」「鉄道物損事故」をいいます。

#### ・輸送障害とは

鉄道による輸送に障害を生じた事態で、鉄道運転事故以外の運休または列車に30分以上の遅延が生じたものをいいます。

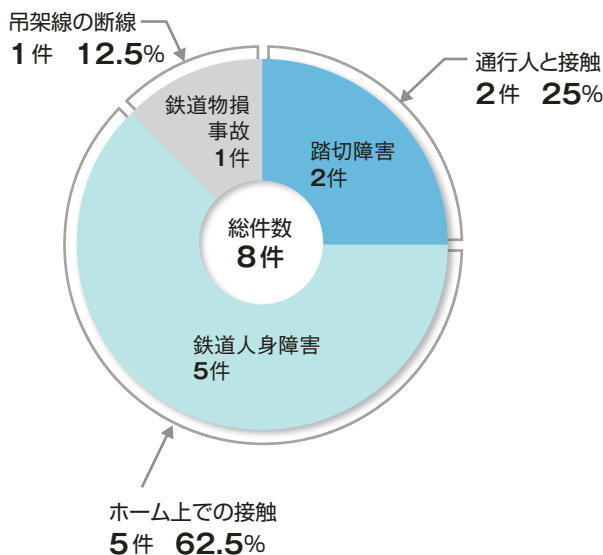
#### ・インシデントとは

事故には至らなかったが、鉄道運転事故が発生する恐れがあると認められる事態をいいます。



### 鉄道運転事故の発生状況

2011年度は8件の鉄道運転事故が発生しました。



#### ●踏切障害（2件）

- 踏切道内の歩行者が列車に接触した。（1件）
- 遮断されている踏切を直前横断しようとした歩行者が、列車に接触した。（1件）

#### ●鉄道人身障害（5件）

- 飲酒されたお客さまがホーム上で列車に接触した。（5件）

#### ●鉄道物損事故（1件）

- 京王堀之内～京王多摩センター駅間にて吊架線が断線した。（1件）

※これらの事故や障害により、お客さまに多大なご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

## ■主な事故・インシデントと再発防止策

いずれも怪我をされた方はおりません。

### 1 相模原線・吊架線の断線

発生日時	2011年8月8日(月)11時19分
発生場所	京王堀之内～京王多摩センター間上り (京王多摩センター駅近く)
概況	橋本発 調布行 各駅停車担当の運転士は、京王堀之内～京王多摩センター駅間を走行中、異音と共に前方の架線が上下に波打っているのを認め、直ちに非常ブレーキを施し京王多摩センター3番線ホームに約4両進入して停車した。担当運転士が車両点検したところ、当該列車の全パンタグラフの破損および京王多摩センター駅上り場内標識付近、上り線側の吊架線が垂れ下がっているのを認めた。
原因	吊架線がき電分岐のコネクタ内の接触面の電気抵抗が腐食により増大したところへ列車の負荷電流が流れたことにより発熱し、吊架線の強度が低下したためと考えられる。

再発防止策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ヘビーシンプルカテナリ構造区間で、吊架線とき電分岐および均圧線との接続金具の緊急点検を実施した。</li> <li>●吊架線およびき電分岐装置の精密検査に分解点検して接触面の状態を検査する項目を10カ年に一度(ただし20年超過後は1カ年に一度)の周期で追加した。</li> <li>●京王多摩センター～橋本駅間については変電所を新設し既設のき電線にてき電容量を十分満たしていること、吊架線が20年以上経過し毎年分解点検が必要になることから、2012年度に吊架線を経由する給電方式から、直接トロリー線へ給電する方式へ変更する。</li> </ul>
-------	---

### 2 井の頭線・遮断されていない踏切道への進入

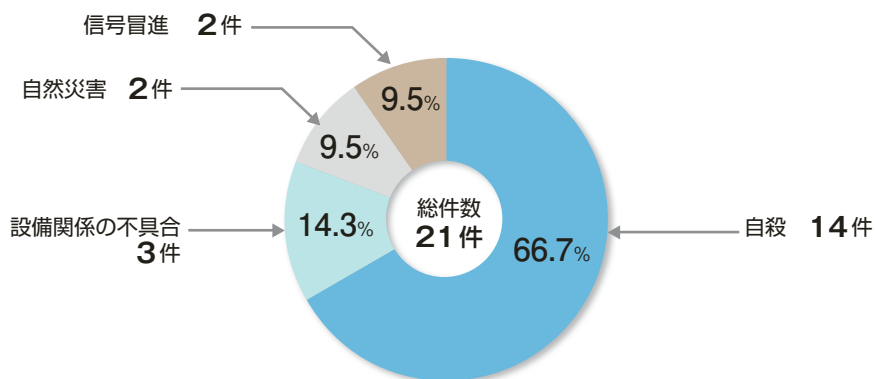
発生日時	2011年12月3日(土)8時37分
発生場所	井の頭線駒場東大前4号踏切道(池ノ上駅ホーム渋谷寄り隣接)
概況	渋谷発 吉祥寺行 各駅列車が池ノ上駅1番線に到着時所定の停止位置より約13m過走して停車した。担当運転士は、停止位置の修正を行ったが、所定の停止位置に止まりきれず最後部が駒場東大前4号踏切道に約0.5m進入して停車した。
原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>●停止位置修正の際戻りすぎて無遮断の踏切道に進入。</li> <li>●「過走」した事に対するの動揺によりミスを誘発したと考えられる。</li> </ul>

再発防止策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●乗務員に対して、過走時の取扱を再確認するため、実車訓練を行った。</li> <li>●退行運転時の危険箇所を管理職、運転士、車掌に再徹底した。</li> <li>●管理職に対しても運転上の危険箇所、リスクを把握するために勉強会を実施した。</li> <li>●ホームと踏切が近接する箇所はATC(自動列車制御装置)化により、可能な限り過走を減少させるシステムとする。</li> </ul>
-------	--



## ■ 輸送障害の発生状況

〔輸送障害の内訳〕



## ■ 自然災害による列車遅延

### ● 台風（雨・風）による影響

2011年9月21日、台風15号の影響により、京王線・井の頭線全線で運転を見合わせました。

### ● 降雨による影響

大雨の影響により、運転速度規制を実施した日が年間2日発生しました。

### ● 風による速度規制

多摩川橋梁付近他で、強風により速度規制または一時運転見合わせを実施した日が、年間26日発生しました。

### ● 地震による影響

2012年1月1日に発生した地震の影響により、一部列車に遅延が発生しました。

### ● 落雷による影響

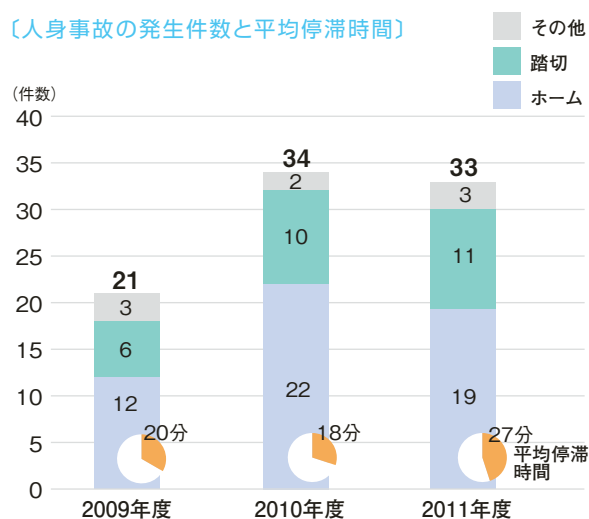
落雷による影響はありませんでした。

### ● 降雪による影響

2012年1月19日、23日および2月28日の降雪の影響により、一部列車に運休や遅延が発生しました。

## ■ 2011年度に発生した人身事故

〔人身事故の発生件数と平均停滞時間〕



## ■ 人身事故について

2011年度の人身事故発生件数は33件で、前年度より1件減少しています。

事故発生時には、早期の運転再開を目指しますが、お客さまおよび係員の安全を最優先に作業いたしますので、ご理解をお願いいたします。

## 安全な鉄道の実現に向けたソフト面・ハード面の取り組み

### 安全教育（ソフト面）の実施

#### ■ 鉄道従事員への教育方針

鉄道事業本部では、「鉄道従事員として、自らの知識・技能の習得に努め、安全・安心・快適な鉄道であるための使命を果たせる人材を育成する」という教育方針に基づいて部署・職位別の教育訓練を行っています。

実務に即した訓練など専門分野に関するものや、部門共通の研修など、安全推進部人材育成担当が部門全体の教育訓練を総括し、鉄道従事員の資質の向上に努めています。

#### ■ 鉄道教習所における教育

鉄道教習所は、国土交通大臣指定の動力車操縦者の養成所として運転士に必要な知識・技能の教育を行っているほか、事故事例のパネルやCAI（コンピュータ支援教育）教材の製作など、2006年度の大規模改修以降も部門全体に活用できる教育施設の充実を図っています。

[主な設備]

##### ● 運転シミュレータ

コンピュータ・グラフィック（CG）映像を活用した運転士訓練機能および車掌訓練機能があります。昼夜・降雨などさまざまな条件が設定でき、乗務員の教育や異常時対応訓練などを行っています。



運転シミュレータ

##### ● 駅業務訓練室

実際の駅を模擬し、駅で使用している自動券売機や自動改札機などを設置しています。駅では行うことが難しい収入金の締切業務などの教育や接遇向上訓練を行っています。



駅業務訓練室

##### ● ホーム訓練室

実際のホームを模擬し、列車非常停止ボタンや転落検知装置などの機器を設置しています。これらの機器を実際に動作させて、異常時における迅速かつ的確な対応ができるよう訓練を行っています。



ホーム訓練室

##### ● 信号取扱訓練室

列車ダイヤが大きく乱れたときなどに実施する、信号操作の取扱い（てこ操作）訓練を行います。実際の信号扱所と同様の操作卓や教育用の大型モニターがあり、模擬的に信号機や転てつ器故障を発生させるとともに、列車遅延や臨時列車を設定できます。



信号取扱訓練室

### ● 連動訓練室

信号機や転てつ器の動作に係る通信機器の訓練室で、装置の仕組みを理解させるために、教師が設定した機器の故障などを調査し復旧する訓練に使用します。



連動訓練室

### ● CAI 教室

鉄道の仕組みや事故防止についてCGを活用して機器の流れや動きを理解させる講義を行うための教室です。受講者用の40台のパソコンと、教師用のパソコン1台で構成されています。受講者は苦手科目などを個別に学習できるほか、教師は遠隔操作で各受講者の進捗の確認やテストの配信を行うことができます。



CAI教室

### ● 事故展示室

主な事故事例を年表形式にまとめた「鉄道事故年表」をはじめ、個別の事例について当時の写真や新聞記事、略図を用いて解説したパネルが展示してあります。

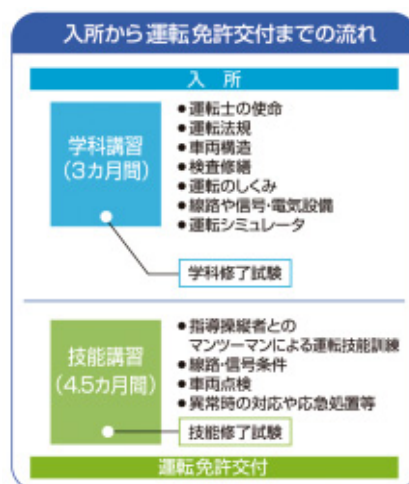
過去の事故を教訓として、安全教育に取り組み、再発防止に役立てています。



事故展示室

## ■ 運転士の養成

運転士になるためには、駅係員、車掌を経験し、国土交通大臣指定の動力車操縦者の養成所である鉄道教習所で学科講習と技能講習を合わせて約8カ月間受け、試験に合格しなければなりません。運転士になった後もフォロー教育および監督者による定期的な添乗指導などを行い、知識・技能の維持・向上を図っています。



## ■ 運輸安全マネジメント教育

鉄道事業本部の鉄道従事員全員（保守業務の委託先社員を含む）に対して、安全管理規程や安全目標、安全重点施策の周知を中心とした運輸安全マネジメント教育を実施しています。会社の安全に対する取り組みなど安全に対する基本的な方針等の指導や、実際に発生した事故事例を扱うなど安全意識の高揚を図っています。

## ■ ヒューマンエラー防止に向けた教育

鉄道事業本部の各職場では、ヒューマンエラーを起因としたトラブルの原因を、職場内のグループ毎に、新QC7つ道具のひとつである「連関図法」により分析し、再発防止策を「系統図法」により立案する取り組みを実施しています。

## ■ 協力会社への教育

軌道・土木・建築、電気、車両などの保守管理や施設改良工事を委託する協力会社の社員に対し、定期的な教育を実施しています。工事の実施にあたっては作業前に毎回行う安全作業指示に加えて、当社の社員と合同で安全総合点検を実施し、現場の安全確認を行っています。このほか、作業中に列車の接近を見張る列車監視員に対しても専門教育を実施しています。

## ■ その他の教育

地元消防署と東京救急協会の協力により、定期的に救命講習を開催し、現在鉄道事業に従事する社員の約2/3が救命技能認定証を取得しています。この中で、AEDの取り扱いについての講習も行っています。



救命講習

## ■ 総合防災訓練

### 鉄道事業本部総合事故復旧訓練

当社では、毎年脱線などさまざまな鉄道事故を想定し、鉄道事業本部全体で異常時の通報・連絡・お客さまの避難誘導など各種訓練を実施し、万が一の事態に備えています。2011年度は、稲城消防署・麻生消防署と多摩中央警察署の協力をいただき、京王線の若葉台車両基地において、電車が踏切道上の自動車に衝突し脱線したとの想定のもと、総合事故復旧訓練を実施しました。



総合事故復旧訓練

## 防災訓練

地震の発生を想定した、各種情報の送・受達や列車の減速運転などの訓練を定期的実施しています。

## ■ その他の主な訓練

各現業職場において、定期的に教育訓練を実施しています。

### 鉄道営業部

駅係員は転てつ器が故障した場合の対応訓練、乗務員は踏切事故を想定した訓練などを実施しています。

また、最寄りの消防署・警察署と合同で、テロや列車火災発生を想定した避難誘導・通報訓練や、地下鉄での火災を想定した初期消火訓練、避難誘導訓練等も実施しています。

### 工務部・車両電気部

各職場単位で定期的に、レールの折損や架線の断線、信号機の倒壊、列車の脱線などの復旧やクレーン等の取り扱い、機器の故障処置訓練などを行っています。

## ■ 安全講演会の実施

2012年2月に安全管理体制の強化を目的とした「安全講演会」を開催しました。

今回は、公益財団法人 鉄道総合技術研究所 主任研究員 宮地由芽子氏を講師にお迎えして、「リスクアセスメントへの取り組みのすすめ」と題し、開催しました。社長はじめ、京王グループ会社（請負工事施工会社含む）の社員が参加しました。



安全講演会

### ■ 立体交差化と踏切の安全対策を進めています

#### 連続立体交差事業



京王線と道路が立体交差する国領駅付近

運転保安の向上のため、線路と道路の立体交差化や踏切の整理統合を行ってきました。特に連続立体交差化については、1964年に京王線の新宿～初台駅間の地下化を皮切りに、1993年に長沼・北野駅付近を、1994年には府中駅付近をそれぞれ高架化し、線路と道路の連続立体交差化を実現しました。

この結果、踏切数は1955年度の322カ所から2011年度末で154カ所に減少しています。

現在、東京都、調布市と協力して進めている調布駅付近連続立体交差事業\*のほか、京王線笹塚以西の鉄道立体化について、事業主体となる東京都とともに事業化に向け、都市計画手続きや環境影響評価などを進めていきます。

#### ※連続立体交差事業

連続立体交差事業は2カ所以上の幹線道路を含む多くの道路と鉄道を連続的に立体化するものであり、道路整備の一環として施行する都市計画事業です。

#### ●調布駅付近連続立体交差事業

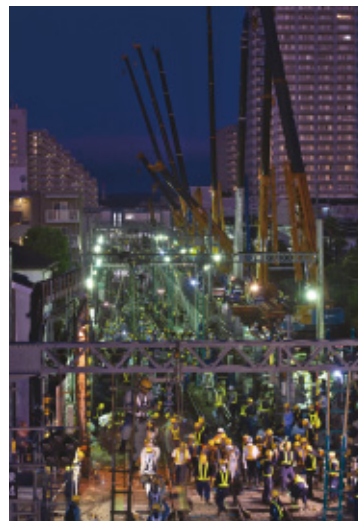
東京都が整備を進めている都市計画道路と京王線との立体交差化を図るため、東京都、調布市と協力しながら、調布駅付近の連続立体交差事業を進めています。

2012年8月には、京王線の柴崎～西調布駅間の約2.8kmと相模原線の調布～京王多摩川駅間の約

0.9kmを地下線化し、鶴川街道や狛江通りなどの立体交差化を図ることで、さらに18カ所の踏切を廃止しました。

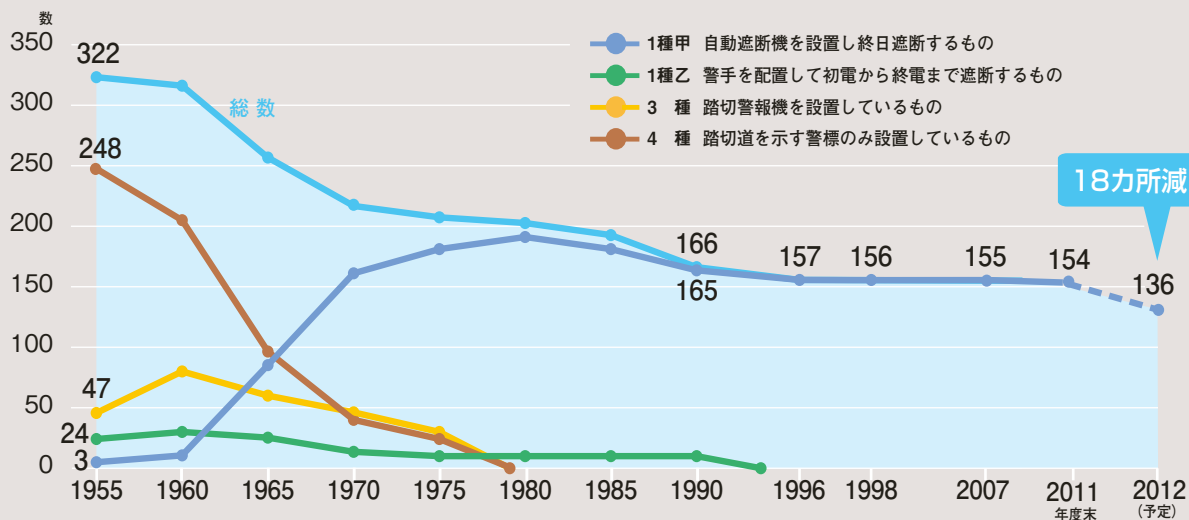


地下線化により開放された踏切（調布駅付近）



調布駅付近連続立体交差事業における地下線化切り替え工事当日の様子

種類別踏切数の推移



踏切障害物検知装置

踏切での列車と自動車などの接触事故を未然に防止するため、94カ所の踏切に踏切障害物検知装置を設置しています。踏切障害物検知装置が踏切内に何らかの障害物を検知すると、発光信号機が作動して運転士に異常を知らせるとともに、京王線ではATC(自動列車制御装置)を介して列車にブレーキ制御の信号を送ります。



踏切障害物検知装置

踏切支障報知装置(非常ボタン)

踏切での列車と自動車などの接触事故を未然に防止するため、すべての踏切に踏切支障報知装置(非常ボタン)を設置しています。踏切内で閉じ込められるなどの緊急事態が生じた場合、ボタンを押すと、発光信号機が作動して運転士に異常を知らせるとともに、京王線ではATC(自動列車制御装置)を介して列車にブレーキ制御の信号を送ります。



踏切支障報知装置

踏切の歩道部のカラー舗装化

踏切内における歩行者の安全を確保するため、歩道のあるすべての踏切で車道と歩道を明確に区別するカラー舗装化を行っています。

くぐりぬけ防止啓発テープ

遮断かんが下りた後の踏切内への侵入を防ぐため、すべての踏切の遮断かんにくぐりぬけ防止の啓発テープを設置しています。



踏切歩道部のカラー舗装化

くぐりぬけ防止啓発テープ

## ■ 運転保安向上のための施設・設備の充実を図っています

### ATC（自動列車制御装置）

【設置路線：京王線】

国土交通省の「鉄道に関する技術上の基準を定める省令等の一部を改正する省令」により、曲線・分岐器・線路終端等に列車が進入する際には、安全上支障のない速度まで自動的に列車を減速させることができる装置の導入が義務付けられました。これを受け、当社では従来のATS（自動列車停止装置）に比べてさらに安全性の高いATC（自動列車制御装置）の整備を進めています。

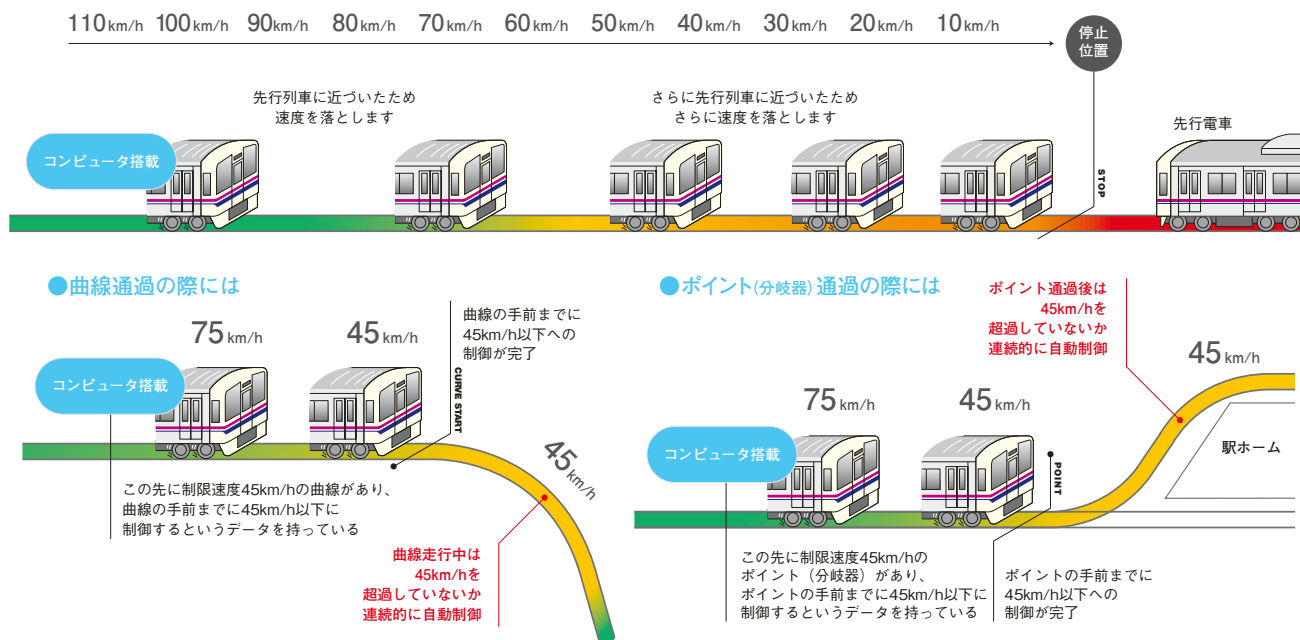
ATCとは、先行列車との間隔や曲線、分岐（ポイント）、下り勾配、停車駅などさまざまな条件をもとに、常に適正な速度で走行するよう列車をきめ細かく制御する装置です。設置路線では、列車速度が制限速度を超えることがなく、また、踏切の非常ボタンや障害物検知装置、駅ホームの列車非常停止ボタンとも連動し、非常の際には列車を自動的に停止させることができます。さらに、気象条件などにより、運輸指令所から任意の区間に速度制限をかけることもできます。

京王線では、2011年10月にATSからの切り替えを完了し、全線で使用を開始しました（このうち相模原線については2010年3月より使用を開始）。

## ATC

Automatic Train Control

車両に搭載しているコンピュータが、レールに流れている信号電流を受け取ることで、先行列車との間隔を連続的に把握し、常に適切な速度で走行できるよう、列車を制御します。



### ATS（自動列車停止装置）

【設置路線：井の頭線】

列車の速度が、信号機の現示に対応する制限速度を超えないようにチェックし、制限速度を超えると自動的にブレーキをかけて列車を減速または停止させる装置で

す。現在は、井の頭線で使用しており、2012年度のATC（自動列車制御装置）への切り替えに向けた準備を進めています。

### 鉄道総合指令センター

鉄道総合指令センターには列車の運行などを管理する運輸指令と、電力の供給を管理する電力指令の機能が集約され、平常時だけでなく、事故や災害発生時の対応を迅速に行えるよう、連携を強化する体制を整えています。

なお、鉄道総合指令センターの建物には、免震機能や落雷を抑制するシステムを備えています。

### 運輸指令所

列車の運行を円滑に行うため、TTC（列車運行管理システム）により、列車の進路設定、出発指示合図などを自動制御しています。事故発生時などには、列車の位置や遅れなどを総合的に判断し、運行ダイヤの整理・復旧を図るとともに、駅・車両のお客様案内ディスプレイや車内案内表示器などを通じて運輸指令所から一括して運転状況などをお客さまにご案内します。

また、沿線に設置された計測機器で観測された震度・風速・雨量などのさまざまな情報が運輸指令所に集約されるほか、気象庁の緊急地震速報を受信する機能を備えています。



運輸指令所

### 電力指令所

列車運転用電力と駅設備や信号保安設備などに用いる付帯電力の送電状況を、集中監視制御システムにより24時間体制で監視しています。

事故や停電が発生した場合は、直ちに予備の施設に切り替え、列車運転への影響を最小限にするなど、電力の安定供給に努めています。



電力指令所

### 過走防止装置

過走余裕距離が特に短い終端駅や、列車が同時に進入進出する駅などに設置しています。複数の地上子がそれぞれ列車の速度を照査し、制限速度以上で列車が通過したときは非常ブレーキを作動させて列車を停止させます。



過走防止装置

### 防護無線装置

列車の脱線や踏切内での自動車などの立往生などにより、他の列車の運行に支障を来す恐れがある場合、乗務員が乗務員室にあるボタンを押し、無線による信号を発報する装置です。この信号を受報した列車の運転士は直ちに列車を停止させ、事故を未然に防ぎます。



防護無線装置

### 車両の緊急停止装置

運転士の体調が急変した場合などに備えて、ハンドルから手が離れると自動的に非常ブレーキが作動する運転士異常時列車停止装置や、車掌が強制的に非常ブレーキをかける装置を車両に搭載しています。



運転士異常時列車停止装置



## TNS 装置

【設置路線：井の頭線】

運転台に設置されており、停車駅に接近するとブザーで停車駅であることを運転士に知らせます。その後、ブレーキ操作をせずさらに停車駅に接近するとブザーと合わせて自動的にブレーキを作動させて誤通過を防止します。

ATC（自動列車制御装置）の未整備路線である井の頭線のみで使用しています。



TNS装置

## 輪重測定装置

脱線事故を未然に防ぐため、車両の輪重比（左右の車輪にかかる荷重のばらつき）が国の定める10%以内となるよう、輪重測定装置を導入し、調整しています。

## 車輪フランジ角度

脱線事故を未然に防ぐため、車輪にあるひっかり部分（フランジ）とレールの水平面に対する角度は、国が推奨している70度を従来から採用しています。

## 脱線防止ガード

国からの通達では、半径200m以下の曲線に脱線防止ガードを設置することが定められていますが、当社では従来からその基準を上回る半径300m以下の曲線に設置しています。また、分岐器（ポイント）にも順次設置しています。



脱線防止ガード

## 軌道の平面性

脱線事故を未然に防ぐため、曲線部における軌道のねじれを測定し、国が定める平面性の基準値を満たすよう管理しています。

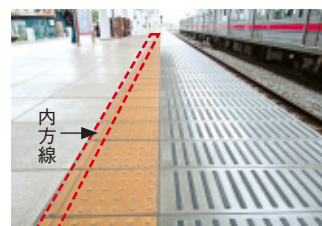
## レールの研削

レールの傷などをなくし、安定した列車の走行と騒音を軽減するため、レールを研削しています。

## ■お客さまのホームでの安全確保に努めています

### 誘導・警告ブロック

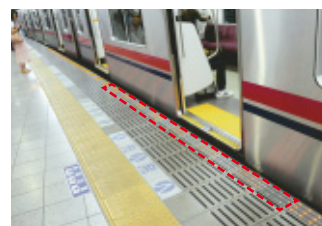
目の不自由なお客さまを誘導・注意喚起するブロックを全69駅に設置しています。ホーム縁端部にある警告ブロックにはホームの内側を示す内方線の整備を進めています。



内方線付き点状ブロック

### 間隙注意灯・スレッドライン

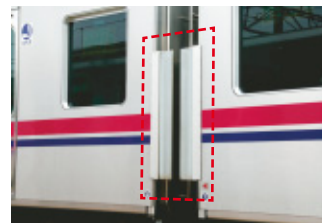
曲線上にあるホーム等、車両とホームとの隙間が広く開いてしまう箇所がある15駅では、光の点滅で隙間をお知らせする間隙注意灯やスレッドラインを設置しています。



スレッドライン

### 車両外幌

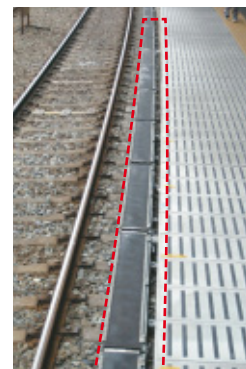
ホームから車両連結部への転落事故を防ぐため、車両の連結部に外幌を設置しています。



車両外幌

### 転落検知装置

曲線上にあるホーム等、車両とホームとの隙間が広く開いてしまう箇所がある15駅に設置しています。万が一、お客さまがホームから転落された場合、この装置が転落を検知し、列車の乗務員や駅係員に知らせるとともに、京王線ではATC（自動列車制御装置）を介して列車にブレーキ制御の信号を送ります。



転落検知装置（マットスイッチ）

### 列車非常停止ボタン

万が一、お客さまがホームから転落された場合などに、このボタンを押すことで、接近する列車の乗務員や駅係員などに非常を知らせるとともに、京王線では、ATC（自動列車制御装置）を介して列車にブレーキ制御の信号を送ります。全69駅のホームに約20m間隔で設置しています。



列車非常停止ボタン

### ホーム下退避スペース・ステップ

万が一、お客さまがホームから転落された場合の緊急避難場所として、ホーム下退避スペースを整備しています。また、退避スペースのないすべての箇所には、ホームに上がりやすくするためのステップを設置しています。



ホーム下退避スペース



ホーム下ステップ

### エレベーター出入口の転落防止柵

エレベーター出入口が線路側を向いているホームの一部では、転落防止柵を設置しています。



エレベーター出入口の転落防止柵

### ホームドア

お客さまのホームからの転落やホーム上での列車との接触事故を未然に防止するため、当社では調布駅付近連続立体交差事業の地下線への切り替えにあわせて、国領駅、布田駅、調布駅にホームドアを設置しました。

また、新宿駅でホームドア設置工事を進めており、2012年度に3番線、2013年度に1番線および2番線での使用開始を予定しています。



調布駅のホームドア

## ■災害などへの対応力を強化しています

### 地下駅火災対策

2003年に韓国で発生した地下鉄火災を受け、地下鉄における火災発生時の延焼防止や避難通路の確保などを目的として「東京都火災予防条例」や国土交通省の「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」が改正されました。

これに基づき当社では、新宿駅における排煙設備および防火区画の設置工事や幡ヶ谷駅における新たな避難通路の設置工事などを行い、2008年度にすべての地下駅火災対策を完了しました。



新たに設置した避難通路（幡ヶ谷駅）



水の幕で防火区画を形成するウォータースクリーン（新宿駅）

### 自然災害対策

自然災害に早期に対応するため、沿線に地震計・風速計・雨量計・水位計を設置しています。それぞれの計器で観測されたデータは運輸指令所をはじめとする各鉄道現業事務所において、24時間体制で監視しています。

2007年度には地震計や風速計などを更新・増設し、エリアごとにきめ細かく気象状況を把握しています。

また、2009年7月からは気象情報会社から降雨情報を入手するなど、気象に関する情報を幅広く把握するよう努めています。

### 地震対策

沿線11カ所に地震計を設置しています。地震計が一定以上の震度を検知すると、列車無線を通じて自動的に全列車に警報を送るシステムを1998年に導入しています。地震発生時の警報を聞いた乗務員は直ちに列車を安全な場所（最寄駅等）に停止させます。

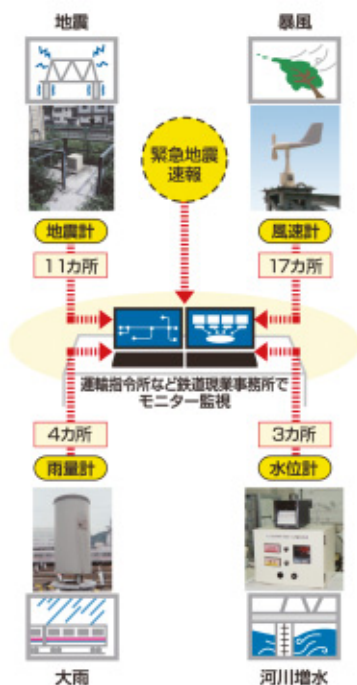
また、2007年に、気象庁の「緊急地震速報」を活用した早期地震警報システムを導入しました。震度4以上の地震発生が想定される場合、自動的に全列車に無線によ

る警報や、京王線ではATC（自動列車制御装置）を介して信号を送り、列車を安全な場所に停止させます。

このほか、1995年に発生した阪神・淡路大震災の翌1996年度までに緊急耐震補強を完了していますが、新たな耐震基準に見合う構造物とするため、引き続き高架橋柱などの耐震性向上策を行っています。

昨年3月の東日本大震災での経験を踏まえ、行政機関と連携して帰宅困難者対策について検討を進めており、自治体と協力して帰宅困難者対策訓練などを実施しています。

自然災害対策



鋼柱増設によるずい道耐震補強



鋼板巻きによる高架橋柱耐震補強



新宿駅での帰宅困難者対策訓練の様子

風対策

沿線17カ所に風速計を設置しています。瞬間風速が15 m/s以上を観測した場合は速度規制を行い、瞬間風速が25 m/s以上を観測した場合は列車の運転を中止するなどの措置を行います。

雷対策

線路内の電気設備への落雷を防止する対策として、電車線より一段高いところに避雷針の役割を果たす「架空地線」と呼ばれる防護線の設置を進めています。

雪対策

パンタグラフは従来のひし形のものより着雪面の少ないシングルアームパンタグラフを採用しています。また、分岐器（ポイント）に電気融雪器を設置しているほか、車両基地等の電車線には着雪・着氷を防ぐためにヒーターを内蔵した電線を使用しています。



シングルアームパンタグラフ

鉄道テロ対策

鉄道テロを未然に防ぐために、全69駅への防犯カメラの設置、ゴミ箱の撤去を行うほか、係員や警備員の巡回により、不審者・不審物などの監視を行っています。また、車両基地などへの不審者侵入を防ぐために、防犯センサーの設置や警備員による巡回を実施しています。

このほか、万が一テロが発生した場合を想定し、警察署や消防署などとともに訓練を行うことで鉄道テロへの対応力も強化しています。



調布駅でのテロ対策訓練の様子

## お客さまと連携したより安全な鉄道づくり

お客さまからお寄せいただいたご意見に対し、適切な対応を図ることで、さらに安全な鉄道づくりにつながっています。また、ご理解と信頼をいただくために、さまざまな情報を提供しています。

### お客さまとのつながり

#### ■京王お客さまセンター

当社では「お客さまセンター」を設け、電話やメール、お手紙などによりお客さまからのご意見ご要望をいただいております。2011年度はご指摘、お褒めの言葉などあわせて約4,600件\*のご意見を頂戴し、うち4,100件\*は鉄道に関するものでした。いただいたご意見に対しては、速やかに回答させていただいて

るほか、担当部署においてサービス向上や従業員教育の資料にさせていただいております。

※メール受信数

お電話 042-357-6161 FAX 042-371-1469  
受付時間9:00～19:00年中無休(年末年始を除く)

### お客さまの声の一例

1

お客さまからの  
ご意見

強風時の車内で運転状況を伝える丁寧な放送がありました。運転士の様子を見たと  
ころ、常に色々なところに気を配り、指差確認をして運転していることに驚き、安全に  
対する責任を強く持っていることが伝わりました。(2011年5月3日受付)

当社の対応

乗務員に伝えるとともに、満足することなく今後活かしてまいります。

2

お客さまからの  
ご意見

桜上水のホームの天井の遮熱シートが剥がれ、ちぎれそうになっている所が何カ  
所も見受けられます。剥がれてパンタグラフに引っかかり、事故につながる可能  
性があります。早急に対応されたほうがよろしいと思います。(2011年10月18  
日受付)

当社の対応

ご指摘のありました断熱材の剥がれについては10月26日に撤去いたしました。

#### ■京王ニュース

当社をはじめ京王グループの事業、業務、イベントや沿線情報についてお知らせする広報誌「京王ニュース」を毎月発行しています。

#### ■京王ホームページ

ホームページでは、京王グループの最新情報、電車・バスのご案内をはじめ、IR・企業情報や沿線情報などを掲載しています。事故や災害などで列車の運行に遅延が生じた場合には、京王ホームページや携帯電話の

サイト「京王ナビ」などにより、運行情報をお知らせするサービスを行っています。



京王ホームページ

## こども110番の駅

京王線・井の頭線全駅を「こども110番の駅」にし、子どもが不審者などから助けを求めてきた場合に、保護し、事情を伺い、必要により子どもに代わって110番通報やご家族への連絡などを行っています。



こども110番の駅認定ステッカー

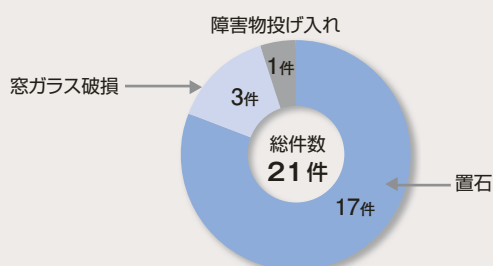
## お客さまへのお願い

警報機が鳴り始めた	踏切内に入らないでください。
踏切内で異常があった	踏切脇にある踏切支障報知装置 (非常ボタン) を押してください。
踏切に車が閉じ込められた	遮断かんを押すように車を前進させると、遮断かんが斜め上に持ち上がりますのでそのまま脱出してください。状況により、踏切支障報知装置 (非常ボタン) を押してください。
ホームから転落した人を発見した	列車非常停止ボタンを押してください。
ホームから転落した	ホーム下退避スペースに逃げてください。 退避スペースのない場合はホーム下ステップを使用してホームに上がってください。
線路に物を落とした	ホームインターホンなどにより駅係員に連絡してください。 絶対に線路内には立ち入らないでください。
電車に間に合わない	発車間際の駆け込み乗車をなさいますと、ホームで転んだりドアにはさまれたりして思わぬ怪我をすることがあります。無理をなさらないでください。
駅ホーム・電車内で不審者・不審物を見つけた	駅係員・乗務員にお知らせください。不審物はそのままして、手を触れないでください。
電車内で異常があった	車内非常通報器の通報ボタンを押して乗務員へ連絡してください。なお、通話機能がない車両は、停車後に乗務員が対応いたしますので、指示に従ってください。

## 列車運行を妨害する行為

列車運行を妨害する行為には、線路への置石および物の放置、列車への投石などがあります。このような行為は、列車往来危険、器物損壊罪などの犯罪行為であり、安全を脅かすものです。当社では防犯カメラや赤外線センサーの設置のほか、最寄りの警察署と連携して巡回を強化し、再発防止に努めています。

列車妨害発生状況



## グループ会社でも安全対策を推進

### ■ 運輸安全マネジメントに基づく安全対策

主に京王沿線を事業エリアとしている京王電鉄バスグループ、東京多摩西部を中心に事業を展開している西東京バス、タクシー・ハイヤー事業を行う京王自動車、引越などの総物流業務を行う京王運輸、御岳山でケーブルカーなどを営業する御岳登山鉄道の京王グループ運輸業各社では「運輸安全マネジメント」の取り組みを行い、安全管理規定の制定、事故件数削減目標の策定、安全最優先の意識向上などを行うとともに、安全関連情報をホームページで開示しています。

また、社長以下役員が営業所を巡回し、安全管理体制の確認や、営業所員・乗務員と安全に関する意見交換を行うなど、積極的なコミュニケーションを図り、輸送の安全確保に取り組んでいます。



社長による職場巡視(京王電鉄バスグループ)



経営トップ安全ミーティング(京王自動車)

### ■ 乗務員の技能向上に向けた現場での取り組み

#### 京王電鉄バスグループ

安全運転、省エネルギー運転を目的として、全車両へのデジタルタコグラフ※1と、路線バス全車両へのドライブレコーダー※2の導入を完了しています。また、関東の各民営バス会社に先駆けて「運転訓練車」を導入しました。「運転訓練車」は運転の様子を映像と音声で記録するとともに、アイマークレコーダー、安全確認装置、燃料測定装置などにより、安全確認や省エネルギー運転をチェックできる装置が備えられています。

さらに、安全運転中央研修所で行われる「バス運転実技4日コース」に乗務員を参加させ、通常では体験できない運転上の危険などを体験し学ぶことで、安全運転に対する意識の向上を図っています。

そのほか、左折時や進路変更時の事故防止を目的として左折チャイムの導入や路線バスに車内確認用の補助ミラーを設置しました。



運転訓練車と訓練の様子

- ※1 デジタルタコグラフ：  
速度とエンジン回転数を数値化し記録する装置です。
- ※2 ドライブレコーダー：  
車内外に設置されたカメラとマイク（集音装置）により映像・音声情報を記録・再生する装置です。

## 西東京バス

2011年度は、全乗務員・全運行管理者に対する研修を実施し、知識・技能の習得と意識改革を図ったほか、事故防止対策委員会による事故原因分析の結果と、乗務員より収集したヒヤリハット情報に対応した事故の再発および未然防止策を実施しました。

乗務員研修については、集合研修として全乗務員が毎年受講しており、座学教育では、過去の事故の報告書・図面・写真やドライブレコーダーの映像などを教材に事故分析を行い、事故を未然に防ぐ教育を実施しました。

また、研修にあわせて社長との懇談会を開催し、社長と全乗務員が直接対話する機会を設けています。

このほか、同じ事故を繰り返さないため、全乗務員に対する個別添乗およびナスバネット（独立行政法人自動車事故対策機構によるインターネット適性診断システム）による一般適性診断を実施し、それらの結果に基づいた個別指導、事故情報やヒヤリハット情報の分類・整理、事故発生直後の原因分析（なぜなぜ分析）などを実施しました。

車載機器類では、ドライブレコーダーとデジタルタコグラフについて、ドライブレコーダーは2011年度、デジタルタコグラフは2012年6月に路線バス全車両への導入を完了しました。



実技訓練（運転席からの死角体験）の様子

## 京王自動車

「運転の基本動作」の徹底に向けて、「無事故・無違反コンテスト」の開催や、就業時間中に行う「小集団活動」の中で、乗務員同士がドライブレコーダーの「日常画像」を視聴しながら互いの「運転の基本動作」をチェックする活動などを行っています。2012年度は、全社を挙げて「追突事故」の撲滅を目標に掲げ、「安全最優先3つの宣言」を設定するなど、1年を通じて施策を展開しています。

## 京王運輸

2008年12月に財団法人全日本トラック協会の「安全性優良事業所」の認定を全事業所が取得したことを受け、交通事故ゼロを目標に各講習会に参加しています。

2011年度は、前年度に引き続き、自動車メーカーの研修コースに自社のトラックを持ち込んで研修を行いました。専用のコースで、さまざまな道路条件を想定しながら実践走行を行い、その後、講師による講義と実践走行のレビューを受けました。

今後も、各種講習会や研修会に参加し、交通事故ゼロを目指します。



ドライブレコーダーのモニタリング画面（京王自動車）



実践走行の様子（京王運輸）



## お客さまとともに

すべてのお客さまに安心してご利用いただくため、駅や車内におけるバリアフリー設備の充実を進めています。また、列車の運行情報を迅速かつ分かりやすくお届けする機能や、安心してご利用いただける案内の充実のほか、より快適にご利用いただくための環境整備など、利便性・快適性の向上を目指しています。

### バリアフリー設備の充実を目指しています

#### ■ 駅設備の整備

##### エレベーター・エスカレーター・スロープ

駅の出入口から各ホームまで、階段などの段差がなく移動できるよう、エレベーター・エスカレーター・スロープを設置し、2011年6月には、京王線・井の頭線の全駅で段差解消を達成しました。エレベーターは65駅に、エスカレーターは43駅に設置しています。



エレベーター

※下北沢駅は、小田急線の連続立体交差事業の進捗にあわせてバリアフリー化する計画です。

##### だれでもトイレ

車いすをご利用のお客さまや小さなお子さま連れのお客さまにも安心してご利用いただける多機能トイレを67駅に設置しています。これらのほとんどには、入口付近に触知案内図を設置し、オストメイト対応の水洗器具も整備しています。



だれでもトイレ

##### 幅広自動改札機

車いすをご利用のお客さまや大きな荷物をお持ちのお客さまなどにご利用いただけるよう、通路幅の広い自動改札機を67駅に設置しています。

##### 自動券売機の蹴込み

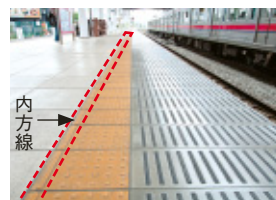
車いすをご利用のお客さまにご利用いただきやすいため、つま先部分に蹴込みを設けた自動券売機を設置しています。



自動券売機の蹴込み

##### 誘導・警告ブロック

目の不自由なお客さまを誘導・注意喚起するブロックを全69駅に設置しています。ホーム縁端部にある警告ブロックにはホームの内側を示す内方線の整備を進めています。



内方線付き点状ブロック

##### 触知案内図・点字による案内

どなたにも駅構内の施設の配置をご確認いただけるよう、凹凸・点字・ピクトグラム（案内用図記号）を用いた案内図を67駅に設置しています。また、自動券売機には点字または音声案内機能を備えているほか、点字運賃表を全69駅に、点字手すりを必要な駅すべてに設置しています。



触知案内図

##### 音声音響案内

目の不自由なお客さまに駅施設の配置などを音声または音響でお知らせする装置を全69駅に設置しています。ホームの階段は鳥の鳴き声、改札口などはチャイムでお知らせしています。



音声音響案内

##### 階段の明度差

階段の段差を視覚的に認識しやすいよう、全駅の階段踏面の端部に明度差をつけています。



明度差のある階段



## ■車内設備の整備

### おもいやりゾーン

京王線・井の頭線全車両で車内の優先席を明確化するために、優先席付近のつり革や座席の色を変えた「おもいやりゾーン」を設置しています。「おもいやりゾーン」付近では医療機器を使用されているお客さまをお守りするため、携帯電話の電源をお切りいただくようご案内するなど、人にやさしい車内環境の整備に努めています。



おもいやりゾーン



優先席案内ステッカー

### 車いすスペース

車いすスペースを京王線9000系車両、8000系車両と、井の頭線1000系車両の全編成に設置しています。また、京王線7000系車両についても、順次設置を進めています。



車内車いすスペース

### 点字シール

目の不自由なお客さまが、ご乗車になっている車両の号車・ドア位置が分かるよう、車両のドアに点字シールを貼付しています。また、各ドア上部に車両の号車をお知らせするシールを貼付しています。



車内点字シール

### 案内表示器・ドアチャイム

次の停車駅などを文字でお知らせする案内表示器(LEDまたは液晶モニター)と、ドアの開閉を音でお知らせするチャイムを京王線9000系車両・8000系車両、井の頭線1000系車両の全編成に設置しています。また、京王線7000系車両についても、順次設置を進めています。



液晶モニターを用いた案内表示器

## 利便性・快適性の向上を目指しています

### ■分かりやすい情報提供

#### 行先案内板

列車の発車時刻や種別・行先・停車駅などを文字でお知らせする案内板を全69駅に設置しています。



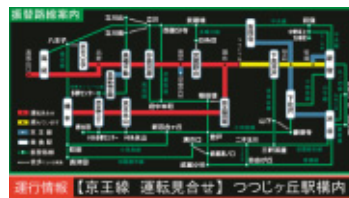
行先案内板

#### お客様案内ディスプレイ

通常時は電車の発車案内などを表示するほか、事故や災害などで列車の運行に遅れなどの支障が発生した際には、支障区間や振替輸送経路などを、視覚的に分かりやすく表示する液晶ディスプレイを65駅の改札口付近に設置しています。



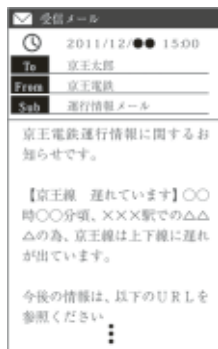
通常時表示例



異常時表示例

### 列車運行情報提供サービス

事故や災害などで列車の運行に遅れなどの支障が発生した際、駅や電車内に設置している電光表示板、「京王ホームページ」や携帯電話のサイト「京王ナビ」などで運行情報をお知らせしています。また、「KEIO MOBILE NEWS」から事前にご登録いただいたお客さまの携帯電話へ、列車の遅れなどを迅速にメールでお知らせします。



メール配信イメージ

### 外国語による情報提供

外国人のお客さまへのご案内の拡充を図るため、駅の看板や電車内の案内表示器などで4カ国語表記(日・英・中・韓)によるご案内を行っています。また、一部の車両には自動放送装置を導入し、日本語と英語による停車駅や乗り換えなどのご案内を実施しています。

### サービススタッフ

電車のご利用に不慣れなお客さまにも安心してご利用いただけるよう、運賃や所要時間、乗り場や駅周辺の施設などの案内を専門に行うスタッフを新宿駅、新線新宿駅、渋谷駅に配置しています。



サービススタッフ

### サービス介助士

お身体の不自由なお客さまや高齢のお客さまが安心して鉄道をご利用いただけるよう、駅係員・乗務員などに「サービス介助士」の資格取得を推進しています。

## ■ 快適な空間の提供

### ホーム待合室

電車が到着するまでの間、快適にお待ちいただけるよう、エアコン完備の待合室を60駅に設置しています。

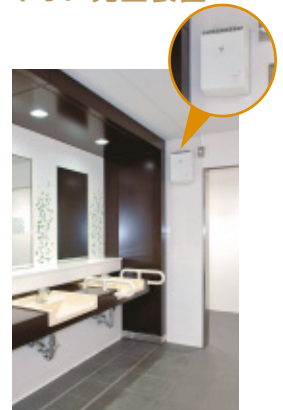


ホーム待合室

### トイレのプラズマクラスターイオン発生装置

空気の浄化効果のある装置を全69駅のトイレに設置しています。抗菌フィルターによるゴミ・ホコリなどの除去や、臭気改善の効果も期待できます。

※プラズマクラスターマークおよびプラズマクラスターは、シャープ株式会社の商標です。



### 車内のユニバーサルデザイン

新造車両の導入や既存車両のリニューアルでは、ユニバーサルデザインの考え方を採り入れ、つり革や荷棚の高さを低くし、手すりやつり革は握りやすい形状にしています。さらに座席端部に仕切り板を設置するなど、すべてのお客さまにご利用しやすい車内環境の整備を進めています。



ユニバーサルデザインによる車内一例

### 女性専用車

2000年に実施した試験導入の結果を踏まえて、2001年から平日23時以降に新宿駅を出発する急行系列車の最後部1両を女性専用車として運転を開始し、2005年から平日朝間・夕間の通勤時間帯にも拡大しました。なお、女性専用車には女性のお客さまのほか、小学生以下のお客さま、お身体の不自由なお客さまとその介助者もご乗車いただけます。



女性専用車案内ステッカー

## グループ会社でも積極的に バリアフリー化に取り組んでいます

### ■京王プラザホテル

#### ユニバーサルルーム

京王プラザホテルは、1988年にアジア地域初の「世界リハビリテーション会議」の会場となったことがきっかけとなり、バリアフリー化を推進してきました。2002年3月には、ホテルをご利用いただいたお客さまの声や専門家の指導をもとにデザインしたユニバーサルルームをさらに10室設置しました。また2007年には、補助犬ユーザーの方々の声を参考に設計した「補助犬専用トイレ」を南館ロビーの外側に設置しました。お越しいただいたすべてのお客さまに、安全・快適にご滞在いただけるよう、館内設備の充実はもちろん、スタッフ一同、心よりサービスに努めてまいります。

#### コルク栓回収・リサイクル

2012年2月から、宴会場で大量に出るワインやシャンパンのコルク栓を集め、資源のリサイクルと障がい者の就労支援に取り組んでいるNPOに寄贈しています。集まったコルクは、障がいのある方々の作業により学校の教材や雑貨に製品化されます。



コルク栓の回収

#### チャリティイベント「ボランティア・プラザ」

京王プラザホテルのバリアフリーやエコロジーの取り組みを多くの方に知っていただき、それを社会貢献につなげることを目的に、2004年からチャリティイベント「ボランティア・プラザ」を開催しています。2012年3月8日の第9回「ボランティア・プラザ」では、チャリティバザーなどに加え、震災復興支援の一環として「料理ボランティアの会」に参加した際、岩手県宮古市にて提供した「ポトフ」をチャリティランチとして販売しました。収益金の一部は東日本大震災の復興支援の義援金として寄付しました。

### ■京王電鉄バスグループ／西東京バス

京王電鉄バスグループおよび西東京バスは、2012年3月現在で全車両がどなたにも乗り降りしやすいバリアフリー対応となりました。

車体が傾斜し乗降しやすいニーリングタイプのノンステップバス928両をはじめ、リフト付きバス48両、スロープ板付きワンステップバス21両を導入しています。



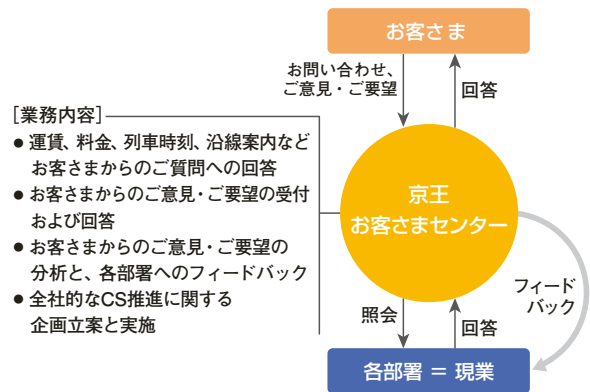
ノンステップバス（ニーリングタイプ）

## お客さまの声を業務改善につなげています

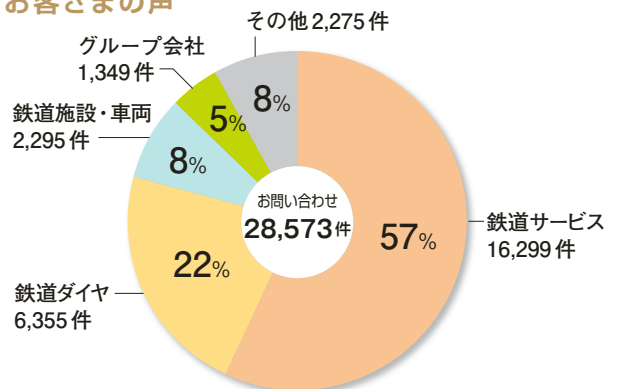
### ■京王お客さまセンターの対応

京王グループは、お客さまからのお問い合わせ、ご意見・ご要望にお応えするために「京王お客さまセンター」を2007年に開設しました。同センターは、お客さまからいただいたお問い合わせに回答するとともに、ご意見・ご要望を分析して各部署へフィードバックすることで、お客さま満足度の高いサービスの実現につなげています。2011年度は、東日本大震災の影響もあり電話やメール、お手紙にて28,573件の声をお寄せいただきました。また、かねてよりご要望のあった携帯電話への鉄道運行情報メール配信サービスを12月に開始しました。

#### 京王お客さまセンターの仕組み



#### お客さまの声



## 株主さまとともに

株主さまに、当社および京王グループ各社に対するご理解を深めていただけるよう、積極的なIR活動に取り組んでいます。

### ディスクロージャー・ポリシーに基づき、適時・適切な情報開示を行っています

株主・投資家の皆さまへの情報開示を行うにあたっての基本的な考え方として、2006年4月に「ディスクロージャー・ポリシー」を制定し、本ポリシーに掲げる内容の実現を図るため、ディスクロージャー委員会を設置しました。ディスクロージャー委員会は、四半期ごとの業績開示にあわせて開催し、決算資料の内容確認を行うほか、年間を通じて適時適切な情報開示を行っています。

具体的には、四半期ごとの業績開示をはじめ、年2回の決算説明会の開催、インベスターズガイド「けいおう」などの発行を通じて、財務や株式、営業の概況に関する情報を積極的に開示しています。これらの開示資料やニュースリリースなどについては、ホームページ上でも公表するなど、個人投資家の皆さまにも分かりやすい情報開示に努めています。



「IR・企業情報」ホームページ



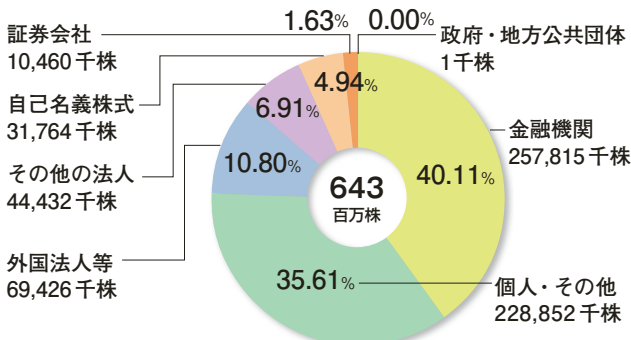
インベスターズガイド「けいおう」

### 株主の状況

当社の2012年3月31日現在の株主数は39,169名です。全体の約7割が、沿線の個人株主です。

発行可能株式総数	1,580,230,000株
発行済株式総数	642,754,152株
株主数	39,169名

### 株主別所有株式の概況



### ディスクロージャー・ポリシー

当社は、株主・投資家の皆様に、当社の企業価値を適正に評価していただくため、適時適切な情報開示に取り組んでまいります。

- ① 金融商品取引法、会社法および東京証券取引所の定める適時開示に係る規則等に従い情報を開示いたします。
- ② ①に該当しない情報についても、株主・投資家の皆様の判断に大きな影響を及ぼすと考えられる重要な決定事実、発生事実などの情報は積極的に開示いたします。
- ③ 情報の開示は迅速に行うとともに、株主・投資家の皆様に公平に伝達されるよう努めます。
- ④ 開示情報の内容については、正確性、明瞭性、継続性を重視いたします。
- ⑤ 開示した情報に対する株主・投資家の皆様からの声を社内で共有し、適切に経営に反映させるよう努めてまいります。

2006年4月1日制定

### ■ 多数の株主さまにご出席 いただいている株主総会

第91期定時株主総会を2012年6月28日に京王プラザホテル八王子にて開催し、約900名の株主さまにご出席いただきました。当日は、京王グループの2011年度における事業の経過や業績について映像で報告するなど、分かりやすい株主総会の運営を心がけました。

### ■ 事業への理解を深めていただく見学会

株主の皆さまに京王グループの事業への理解を深めていただくため、施設見学会を行っています。2012年8月は当社施設の鉄道教習所・京王資料館、京王設備サービスの技術総合訓練センターで運転シミュレータや防災体験を実施しました。



鉄道教習所の見学

## 協力会社・行政とともに

当社は、協力会社と連携して安全確認の徹底を図っています。また、PFI 事業など、行政との積極的なコラボレーションを進めています。

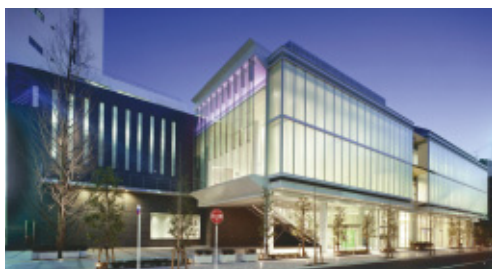
### 協力会社と連携して、技能・知識の向上と安全確認の徹底を図っています

鉄道設備の軌道・土木・建築、電気工事や、車両などの保守管理、改良工事を委託する協力会社の社員に対して、定期的に労働安全や輸送の安全に関する教育を実施しています。特に、工事の監督者に対しては資格の認定を実施し、資質・技能・知識について確認を行っています。また、工事の実施にあたっては、作業前に毎回行う安全作業指示に加えて、当社の社員と合同で安全総合点検を実施し、現場の安全確認を行っています。

### 行政と協働し、文化振興や交通網の整備を進めています

#### 杉並公会堂

2006年6月、杉並区のPFI事業として杉並公会堂がリニューアルオープンしました。クラシック音楽を中心とした1,190席の大ホールをはじめ、194席の小ホールや5つのスタジオなどを備えています。また、地下2階から屋上までを吹き抜けにした建物の中心部に、自然の光と風を取り入れることができるほか、屋上緑化や雨水利用トイレなど、環境に配慮した施設となっています。京王設備サービスは、「地域の人々に愛される施設」を目標に、施設の維持管理や、コンサート・イベントなどの企画・運営を手がけています。



杉並公会堂

#### ルミエール府中

2007年12月に「府中市民会館」はPFI事業による建て替えて、コンベンションホールや中央図書館などの複合施設「ルミエール府中」に生まれ変わりました。2012年3月末までの市民の方のご利用は、図書館だけでも累計で444万人に達し、府中市の重要施設のひとつとなっています。京王設備サービスは、この建

物の維持管理を行うにあたり、節電、雨水の再利用による節水、発生ゴミの資源化など、環境に配慮した業務運営に努めています。



ルミエール府中

#### コミュニティバス

東京都内では、地方自治体を中心となって、コミュニティバスや循環バスなどの路線を開通しています。京王電鉄バスグループと西東京バスは、利便性の高い街づくりに貢献するため、下記バス路線を受託・運行しています。



「はむらん」でんきバス

#### 地域路線バスの運行状況

名称	行政	運行	開始	コース数
日野市ミニバス	日野市	京王電鉄バス	1986年8月	8
多摩市ミニバス	多摩市	京王電鉄バス	1997年11月	2
調布市ミニバス	調布市	京王バス東	2000年3月	2
るのバス	あきる野市	西東京バス	2000年10月	2
すぎ丸	杉並区	京王バス東	2000年11月	2
CoCoバス	小金井市	京王バス中央	2003年3月	4
ぶんバス	国分寺市	京王バス中央	2003年3月	3
はちバス	八王子市	西東京バス	2003年3月	3
ちゅうバス	府中市	京王バス中央	2003年12月	5路線 (6コース)
ハチ公バス	渋谷区	京王バス東	2004年9月	2
はむらん	羽村市	西東京バス	2005年5月	4
新宿 WE バス	新宿区	京王バス東	2009年9月	1
みたかんティバス	三鷹市	京王バス東	2012年3月	1

2012年3月31日現在

## 社員とともに

「信頼のトップブランド」を目指す当社では、誰もが働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

### 働きやすい職場づくりに向けた雇用制度を整備

#### ■雇用に関する基本情報

##### 当社の社員数

当社の社員数は2,380名、京王グループ全体の社員数は約1万3千名(ともに2012年3月31日現在、臨時従業員数を除く)です。

#### ■多様性に配慮した雇用制度

##### 女性の登用

1987年以降、京王グループは毎年4年制大学卒の女性を総合職として採用してきました。当社の2012年3月末における女性社員は171名、うち主任以下の総合職は37名、管理職は16名となっています。総合職からは、グループ会社の社長も誕生しています。

##### 障がい者の雇用

2004年に特例子会社「株式会社京王シンシアスタッフ」を設立しました。2006年からは、関係会社特

例認定を取得し、グループ会社の障がい者雇用も拡大しています。2012年6月現在、当社および関係会社特例認定を取得した京王グループ8社を含めた障がい者雇用率は2.1%となり、98名が社内施設の清掃業務などに従事しています。

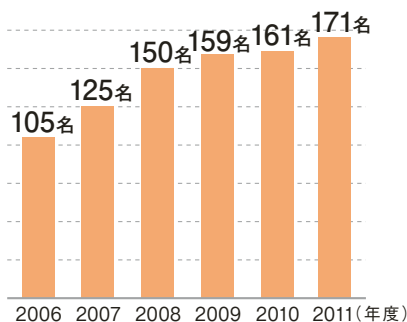
##### 高齢者再雇用

2001年度から老齢厚生年金支給開始年齢の65歳への段階的な引き上げが開始され、高齢者等の雇用の安定等に関する法律の改正に対応して、当社は定年退職した社員を再雇用する「継続雇用制度」を2006年に創設しました。2012年6月現在、再雇用社員は146名となっています。

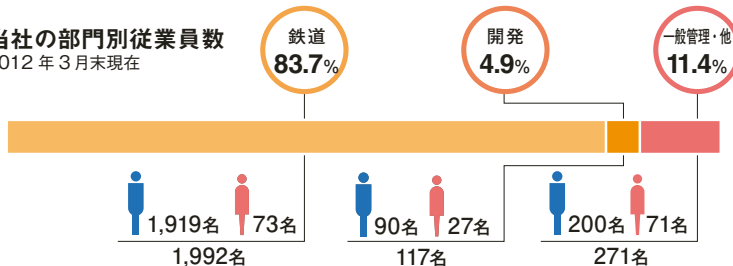
#### ■従業員満足度の向上に向けて

京王電鉄では2011年1月、紙およびWEBを使用した無記名式アンケートによる「従業員意識・満足度調査」を実施しました。対象2,770人のうち94.5%から回答があり、満足度は概ね良好な結果が得られました。社員一人ひとりが主体的に働きやすい職場風土の醸成に取り組んでいけるよう、調査結果を社内報で公表し、課題の共有化を図りました。

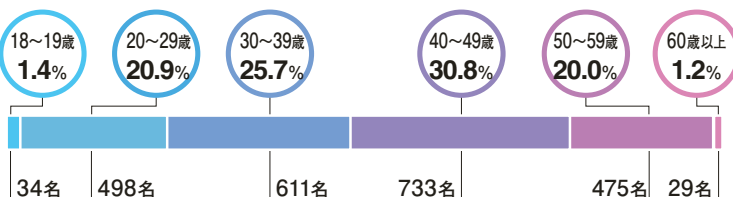
当社の女性社員在籍人数の推移



当社の部門別従業員数  
2012年3月末現在



年齢別従業員構成  
2012年3月末現在



## メンタルヘルスケアの充実により、労働安全衛生を推進しています

京王グループは、1998年から「ストレスチェック」「心の健康調査」「メンタルヘルスマネジメントセミナー」を実施し、個人および組織の健康度把握、セルフケア、産業保健スタッフによる「心の病」のケアを導入しました。さらに、2007年には社外の臨床心理士による相談窓口を開設し、2008年からは保健師単独での職場訪問を開始しました。

## 仕事とプライベートの両立を支援しています

### ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

当社は、働きやすい職場環境づくりのため、「ワーク・ライフ・バランス推進のためのセミナー実施」などに取り組んでいます。また「夏期有給休暇取得推奨」「年次有給休暇の半日単位付与」などにより休暇の取得を推進しており、2011年度の年次有給休暇の取得率は82.2%となっています。

### 育児支援

京王グループ社員の育児を支援し、仕事と育児の両立を支援するため、2006年に事業所内保育所「サクラさーくる」を開設しました。京王グループ社員12名（2012年7月現在）が、この施設を利用しながら仕事に励んでいます。

また、子どもの出生後も引き続き勤務する意思のある社員が育児に専念できるよう、「育児休職制度」を設けています。これまでに、この制度を利用した女性社員が延べ40名、男性社員が5名（2012年7月現在）、女性社員については、出産後全員がこの制度を利用しています。



事業所内保育所「サクラさーくる」

2009年には、「仕事と子育ての両立支援に積極的に取り組んでいる企業」として認められ、次世代認定マーク「くるみん」を取得しました。



次世代認定マーク「くるみん」

### 社員の子どもによる職場見学会

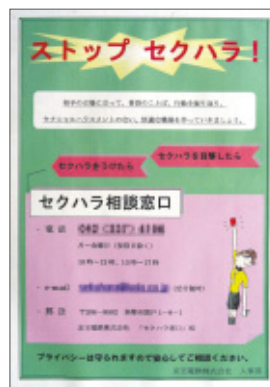
当社では、社員の家族に職場への理解を深めてもらうため、夏休み期間中に「社員の子どもによる職場見学会」を開催しています。2012年度は52名の子どもとその保護者が参加し、鉄道の施設管理所や沿線施設の「味の素スタジアム」を見学しました。



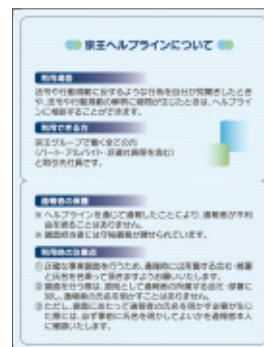
職場見学会の様子

### ハラスメントのない職場環境の整備を進めています

京王グループ各社では、1999年の男女雇用機会均等法の改正を受け、セクハラ防止のための研修や相談窓口の設置を行いました。2009年からは、セクハラだけでなく、パワーハラスメントなどにも対応する相談窓口を設けました。



セクハラ防止ポスター



ヘルプラインカード

## 地域社会とともに

少子高齢化が進むなか、活力のある京王沿線をつくりあげるために、沿線社会の活性化に向けたサービス事業や、さまざまな社会貢献活動に取り組み、沿線価値の向上を図っています。

※社会貢献活動に関してはp10～13、p60～61をご覧ください。

### 子育て世代が暮らしたくなるような街づくりに向けた子育て支援事業を展開しています

#### ■乳幼児保育の支援

京王沿線における子育て支援サービス全般の運営を行う株式会社京王子育てサポートは、東京都認証保育所「京王キッズプラッツ」を、京王多摩川、高幡不動、千歳烏山、南大沢、永福町、東府中に開設しています。いずれの保育所も駅から近い便利な場所に位置し、利用者の方々から好評をいただいています。また、世田谷区の子育て支援複合施設「子育てステーション烏山」において、一時預かり、親子ひろば、病後児保育の受託運営も行っています。



京王キッズプラッツ

#### ■学童保育の支援

京王グループは2011年7月、民間学童保育施設「京王ジュニアプラッツ」を千歳烏山に開設しました。「知育(学習)」「徳育(社会性)」「体育(健康増進)」にバランスのとれたプログラムで、小学生のお子さまに安心安全で有意義な放課後生活を提供し、健全な成長をサポートしています。

2012年4月からは、指定小学校からのお迎えサービスも開始するなど、サービスの充実を図っています。



京王ジュニアプラッツ

### 沿線のお客さまの日常のお困りごとに幅広く対応し、安心・快適なサポートを展開しています

#### ■京王ほっとネットワーク

暮らしに役立つサービスを提供するサービスカウンターとして、高幡不動、桜上水、永福町に開設しています。

増改築・庭木の手入れといった住まいのメンテナンス、キッチンや風呂場の掃除をはじめ、2012年3月から開始した通院の付き添い、不在宅の清掃などの家事代行、高齢者の見守りや住まいの防犯、パソコンの操作説明などさまざまな安心が得られるサービスを沿線全域で提供しています。

さらに京王ほっとネットワーク3店舗の周辺地域では、京王ストアなどでの買い上げ商品の宅配や、インターネット・電話などによる注文にも対応しています。

そのほかにも、各種相談会・イベントの開催やコピー、デジタルプリントなどのサービスを提供しています。

今後もお客さまのさまざまなニーズを収集し、サービスの充実を図っていきます。



サービスカウンター



京王ほっとネットワーク高幡店



家事代行



## 多世代が住みやすいコミュニティを形成しています

### ■シェアハウス「りえんと多摩平」

2011年10月、築約50年の団地5棟をリノベーションした「たまむすびテラス」が完成しました。たまむすびテラスは、高齢者住宅、ファミリー向けの菜園付賃貸住宅、そして、株式会社リビタが企画・運営する“シェアハウス”「りえんと多摩平」で構成された多世代コミュニティです。

新しい住人たちに受け継がれたこの団地では、これまでに10棟の“シェアハウス”を手掛けたリビタの企画・運営ノウハウも活かし、他の事業者とともに開園当初のまちびらきイベント以降も、どんど焼き、もちつき大会などが開催され、世代を超えた交流が広がっています。また、この場所は地域の散歩コースにもなっており、フリーマーケット、音楽ライブ、「アーティスト in 団地」、「懐かしくて新しい団地写真展」などのイベントを通じて、団地と地域の人々のつながりあいも広がっています。



たまむすびテラスでのイベントの様子

### ■街はび

沿線の情報を共有しあうネット上のコミュニティづくりのため、2007年に開設した京王沿線クチコミ情報サイトです。ライターの魅力的な記事が京王線・井の頭線の69駅ごとに展開されるほか、「てんきち母ちゃんの今週の晩ご飯」などの特別企画も連載され、子育て世代に役立つ情報がいっぱいです。



街はびモバイル  
QRコード

街はび

### ■シニアレジデンス事業

京王初のシニアレジデンス事業として、2012年8月に世田谷区に介護付有料老人ホーム「アリストージュ経堂」が入居を開始しました。

京王ウェルシステージが事業の運営主体となり、安心の医療と充実した介護、京王グループ各社が連携した生活サービスを提供することにより、充実したシニアライフをサポートします。



アリストージュ経堂

### 京王音楽祭を開催し、東日本大震災の義援金を寄付しました

#### ■チャリティコンサート「京王音楽祭」

お客さまや沿線地域への感謝・還元イベントとして、東京オペラシティでのチャリティコンサート「京王音楽祭」を1994年より開催しています。2011年度は、「美しい旋律で魅せるアメリカン・クラシック」をテーマに開催し、入場料は日本赤十字社を通じて東日本大震災の義援金として寄付しました。



京王音楽祭

## 環境マネジメント

京王グループは「京王グループ環境基本方針」のもと、地球温暖化防止や生物多様性保全など、環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

### 企業の社会的責任の一環として、 グループ環境経営を推進しています

当社では、2000年11月に環境基本方針を定め、環境法令遵守はもちろんのこと、各事業の特性に応じた省エネルギー化や廃棄物削減、資源リサイクルなどを積極的に推進してきました。その後、環境保全への取り組みは京王グループ共通の課題であるとの認識から、2004年12月に「京王グループ環境基本方針」を制定しました。グループ社員一人ひとりが環境方針の内容、なかでも自分の業務に関わりがある項目につ

いて十分理解し、仕事に活かしていけるよう、環境教育の実施や、環境マネジメントシステム(EMS)の継続的運用を通じて浸透を図っています。

また、生物多様性の保全と持続可能な利用の確保に社会の関心が高まるなか、「京王グループ環境基本方針」に基づき、2010年9月に「生物多様性行動指針」を制定しました。

### 京王グループ環境基本方針

私たちは、「環境にやさしく」というグループ理念に基づき、環境問題を地球規模で考え、持続的発展が可能な社会の実現を目指して、環境保全に配慮した事業活動を行います。

1. 地球温暖化防止のため、エネルギーの効率利用に努めます。
2. 循環型社会実現のため、廃棄物の削減、リサイクルおよび適正処理を図るとともに汚染の予防に努めます。
3. 環境に関する法令、条例、協定などを遵守します。
4. 地域社会との調和を目指し、騒音、振動の抑制ならびに緑化活動の推進に努めます。
5. より良い環境の実現に向けて、地域や社会の環境保全活動に積極的に参加します。
6. 従業員一人ひとりの環境意識向上を図るため、啓蒙・教育活動を実施します。
7. これらの環境保全活動を推進するため、鉄道をはじめとするすべてのグループ会社の事業活動において環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善に取り組みます。

2004年12月9日制定

### 生物多様性行動指針

私たちは、生活に身近な事業を展開していくなかで、自然の恩恵を継続的に享受していることを認識し、持続可能な利用や自然と共生する社会の実現に向け、生物多様性に配慮した事業活動を行います。

#### 1. 事業活動がおよぼす環境への影響把握

事業活動と生物多様性とのかわり(恵みと影響)を把握するように努め、取り組みの必要性に対する認識を高めます。

#### 2. 自然環境の確保と保全

事業活動における自然環境への影響の回避または低減に取り組むとともに、緑化を推進し、地域の豊かな自然環境の確保と保全に努めます。

#### 3. 資源循環の推進

資源の利用が生物多様性におよぼす影響を低減するために、グリーン購入など環境に配慮した調達や3R活動(リデュース・リユース・リサイクル)を推進し、環境負荷低減に努めます。

#### 4. ステークホルダーと連携した生物多様性の保全

従業員をはじめ、取引先企業、お客さまなど多くのステークホルダーと連携し、情報の発信と収集を行いながら生物多様性の保全に努めます。

2010年9月8日制定

## 環境マネジメントシステムのもと、活動のレベルアップを図っています

当社は、2004年度に本社において環境マネジメントシステムを開始し、その後現業へ拡大しました。2012年度は、全員参加で8回目となるPDCAサイクルを回し、地球温暖化防止や資源リサイクルなどのレベルアップに努めています。

グループ各社の環境マネジメントシステム構築状況は、ISO14001 認証取得4社、ISO14001 に準じたシステム構築7社、グリーン経営認証取得6社、エコアクション21 に準じたシステム構築25社となっています。

### EMS 内部監査

当社の本社部門では、ISO14001 に準じた活動の一環として、内部監査を実施しています。2011年度は、本社20部門から各2名のEMS 監査員を選出し、新任監査員はトーマツ環境品質研究所の教育を受けました。内部監査は、2部署の監査員が被監査部署を

チェックする体制で、これを相互に実施しました。その結果、提案事項および不適合の指摘事項はありませんでした。

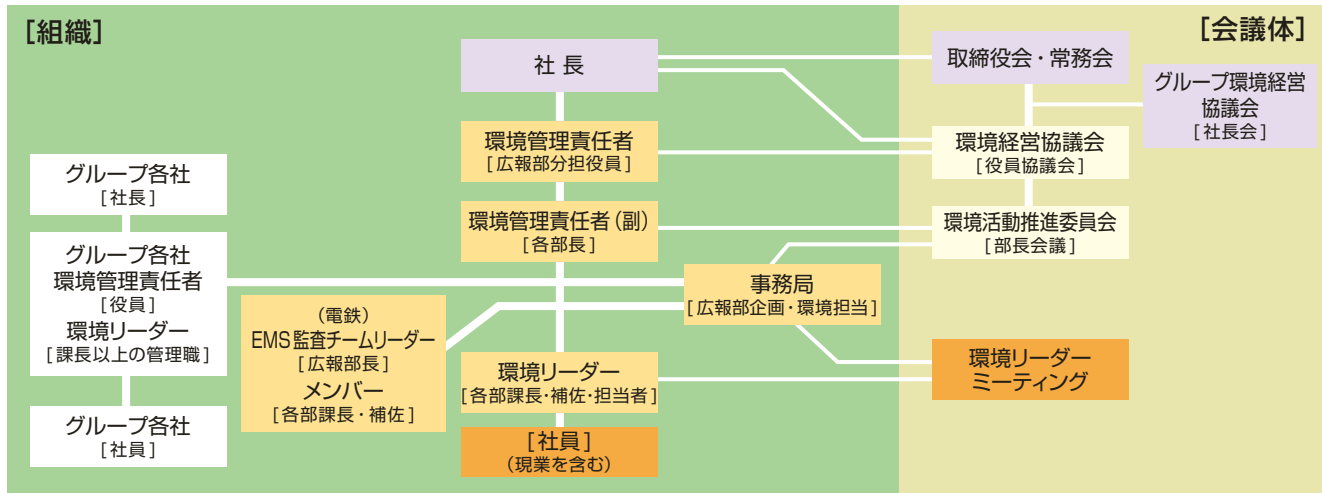
### 環境教育

京王グループ全体で、環境関連法令や環境マネジメントシステムに関するレベルアップを図るため、積極的に環境教育を実施しています。

環境教育実績 (2011年度)

実施月	内容	対象	回数	人数
10月	内部監査員養成研修	新任内部監査員	2	30
11月	廃棄物適正処理セミナー	グループ全社実務者	1	68
12~3月	エコアクション21セミナー	グループ各社環境リーダー	5	36
1月	環境セミナー 「多摩の里山に目を向けよう、出かけよう ～京王沿線の多摩の里山～」	社員および一般参加	1	170
3月	廃棄物処理施設視察会 (東京都墨田区)	グループ全社実務者	1	23
3月	廃棄物適正処理研修 (e-ラーニング教育)	本社在籍者	1	950

### 京王グループ環境マネジメントシステム推進体制図



### 京王グループ各社の EMS 構築状況

分類	会社名
ISO14001	認証取得 (4社) ●京王設備サービス ●京王建設 ●京王地下駐車場 ●京王エージェンシー 準拠した活動 (7社) ●京王電鉄 ●京王百貨店 ●京王ITソリューションズ ●京王アカウンティング ●京王ビジネスサポート ●京王ユース・プラザ ●京王子育てサポート
グリーン経営認証	認証取得 (6社) ●京王電鉄バス ●京王バス東 ●京王バス中央 ●京王バス南 ●京王バス小金井 ●京王運輸
エコアクション 21	準拠した活動 (25社) ●西東京バス ●京王自動車 ●京王ストア ●京王書籍販売 ●京王リテールサービス ●京王バスポートクラブ ●京王アートマン ●京王食品 ●京王グリーンサービス ●京王不動産 ●京王プラザホテル ●京王プラザホテル札幌 ●京王プレッソイン ●京王観光 ●京王レクリエーション ●レストラン京王 ●京王重機整備 ●東京特殊車体 ●京王シニアスタッフ ●京王商事 ●新東京エリート ●エリート ●京王友の会 ●京王コスチューム ●御岳登山鉄道

## 2014年度までの中期環境目標

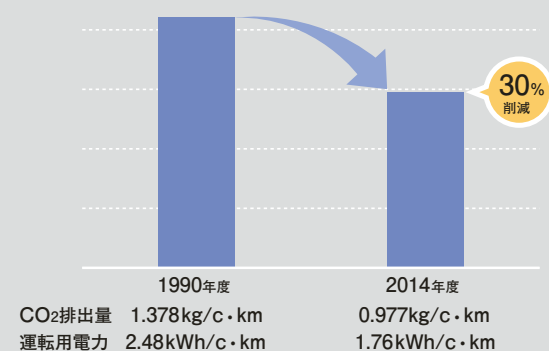
当社は、事業の継続的な発展と、持続可能な社会づくりに貢献するため、事業計画の一環として中期環境目標を設定しています。

### 電車の運転用電力を 1990 年度比で 30%削減します

鉄道で消費する電力は、電車の運転に使用する電力と、駅施設（照明、昇降機、空調設備など）や保安設備（踏切、信号機など）などに使用する付帯電力に大別できます。

当社では、このうち電車の運転に使用する電力について、最も有効な施策である車両のVVVFインバータ制御化を積極的に進めており、省エネルギー化を推進することで、2014年度における運転原単位（1車両1km走行あたりの消費電力量）を1990年度比で30%削減することを目指します。

運転用電力およびCO<sub>2</sub>排出量（運転原単位）の削減計画



車両のVVVFインバータ制御化は、2012年9月に100%達成しました。1998年度に全車両への導入が完了している「回生ブレーキ」と合わせると、これらの装置の導入前に比べ、消費電力量は約45%削減しました。

このほか、従来の蛍光灯に比べて大幅に消費電力を削減できるLEDや高効率照明を、駅の照明設備や内照式の案内看板などに順次導入するなど、電力使用量の削減に努めています。

### 開発事業部門は、東京都の基準を超える12%のCO<sub>2</sub>排出量削減に取り組みます

東京都環境確保条例の対象となる大規模ビル8物件<sup>※1</sup>では、空調設備やボイラー設備などの省エネルギー化に

より、積極的なCO<sub>2</sub>排出量削減に努めています。条例では基準値<sup>※2</sup>に対し、2010年度～2014年度に年平均8%のCO<sub>2</sub>排出量削減義務を課しています。当社は2012年度に基準値に対して12%の削減を目指しており、これにより都の削減義務の達成を図ります。

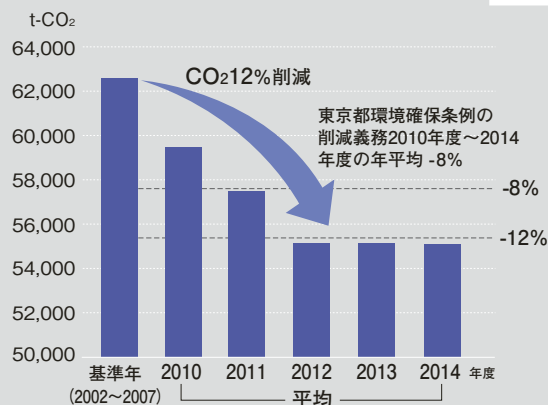
また、この目標達成をより確実なものとするために、「都内中小クレジット<sup>※3</sup>」を活用して、京王電鉄が所有する都内中小物件のCO<sub>2</sub>排出削減量を大規模ビル8物件に充当する予定です。

※1 京王プラザホテル新宿、京王プラザホテル八王子、京王プラザホテル多摩、京王品川ビル、京王八王子明神町ビル、京王百貨店新宿ビル、京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター、京王八王子ショッピングセンター

※2 「基準値」とは、2002年度～2007年度のうち任意の連続した3カ年におけるCO<sub>2</sub>排出量の平均値をいいます。

※3 都内中小事業所の省エネルギー対策によるCO<sub>2</sub>削減量を、総量削減義務のある大規模事業所が利用できる仕組み。

大規模ビル8物件のCO<sub>2</sub>排出量削減実績と目標



### 賃貸物件のCO<sub>2</sub>排出量を13.6%削減しました

2010年4月に改正省エネルギー法が施行され、当社は2009年度より、エネルギー使用状況を省庁に届け出ています。2011年度の実績は約40千kℓ<sup>※</sup>で、床面積あたりの原単位は42ℓ/m<sup>2</sup>でした。これは2009年度に対して13.6%削減した計算になります。

※この値は鉄道の電力は含まれず、主に当社の所有する賃貸物件のエネルギーです。

# 環境負荷の把握

当社の事業には、「鉄道事業部門」と、土地・建物の賃貸・販売を行う「開発事業部門」、会社全般の管理業務を行う「一般管理部門」があり、各部門で重点課題を特定しています。

事業部門ごとに環境負荷を把握し、  
負荷低減に向けた活動を推進しています

※以下の数値は、当社のEMS活動の範囲を対象としており、東京都環境確保条例および改正省エネルギー法で定められた開示の対象とは異なります。


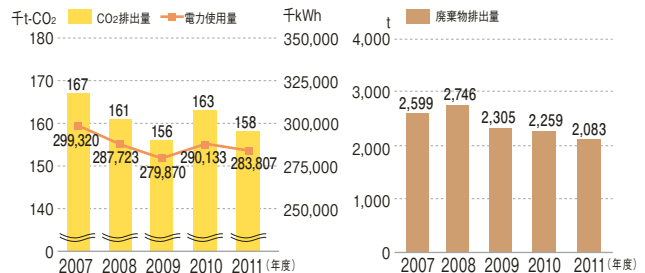
## 2011年度の環境負荷と5年間のレビュー

### 鉄道事業部門

INPUT		対前年度比	
電力	283,807 kWh	-2.2%	
都市ガス	242 千m <sup>3</sup>	+3.4%	
LPG	11 千kg	-21.0%	
石油系燃料	51 kℓ	+2.0%	
水	374,759 m <sup>3</sup>	+8.7%	
事務用紙	6,725 千枚	-4.3%	

OUTPUT		対前年度比	
一般廃棄物	711t	-33.9%	
産業廃棄物	1,372t	+16.0%	
CO <sub>2</sub> 排出量	158,177t-CO <sub>2</sub>	-2.9%	

集計対象は、列車の運行および駅など鉄道事業に関わる事業所です(本社除く)。

鉄道事業の主な環境負荷である電力使用(=CO<sub>2</sub>排出)については、車両や駅の省エネルギー化を進めたほか、照明の消灯・滅灯など夏期を中心とした節電対策により、2.9%の減少となりました。


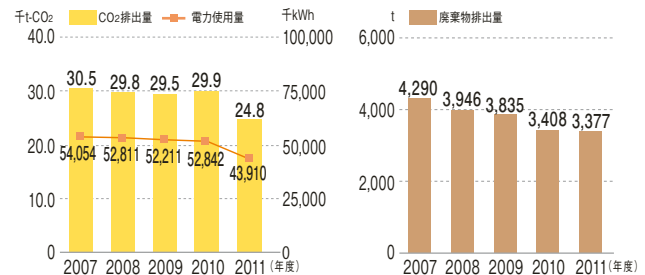
廃棄物については、7.8%の減少となりました。

### 開発事業部門

INPUT		対前年度比	
電力	43,910 kWh	-16.9%	
都市ガス	183 千m <sup>3</sup>	-25.0%	
石油系燃料	2kℓ	-40.0%	
水	293,483 m <sup>3</sup>	-7.0%	
事務用紙	792 千枚	+83.3%	

OUTPUT		対前年度比	
一般廃棄物	3,066t	-1.4%	
産業廃棄物	311t	+4.0%	
CO <sub>2</sub> 排出量	24,806t-CO <sub>2</sub>	-16.9%	

集計対象は、自社管理のショッピングセンターおよび京王フローラルガーデンです。

計画停電の影響で前年度増加した石油系燃料の使用量は減少し、空調・照明管理の徹底などの節電努力により電力使用量は16.9%の減少となりました。


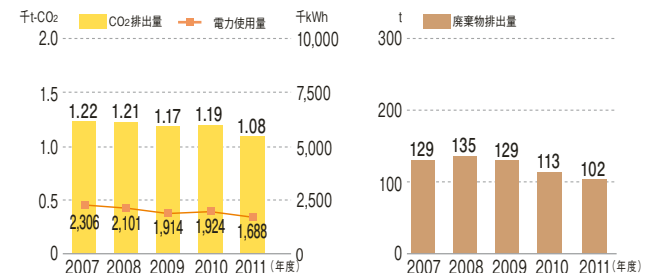
廃棄物については、テナントの協力を得て0.9%の減少となりました。

### 一般管理部門

INPUT		対前年度比	
電力	1,688 kWh	-12.3%	
都市ガス	26 千m <sup>3</sup>	-3.7%	
石油系燃料	13kℓ	-27.8%	
水	19,478 m <sup>3</sup>	+27.4%	
事務用紙	10,540 千枚	+1.1%	

OUTPUT		対前年度比	
一般廃棄物	84t	-5.6%	
産業廃棄物	18t	-25.0%	
CO <sub>2</sub> 排出量	1,077t-CO <sub>2</sub>	-9.3%	

集計対象は、本社、診療所、研修施設、社員クラブです。

空調の運転方法を工夫するなど徹底した節電・省エネルギー対策により、9.3%の減少となりました。

廃棄物については、全社員を対象とした廃棄物分別のe-ラーニングを実施するなど、社内教育と分別の徹底により9.7%の減少となりました。

## 2011年度の活動実績と2012年度の環境目標

2011年度は、環境目標をほぼ達成しました。2012年度は、目標達成に向けて鉄道車両・駅施設の省エネルギーなどを推進していきます。

目標分類	環境目標	活動範囲	2011年度の活動実績
1. 環境推進体制	EMS活動の監査	全部門	EMS内部監査（共通目標・個別目標をISO14001規格に準じた形態で年1回実施）
		グループ各社	各社で設定した環境目標の実施状況を個別にヒアリング（12月に実施）
	廃棄物処理の法令遵守	グループ全体	廃棄物処理状況の監査（一般廃棄物・産業廃棄物） 電鉄10部署・グループ13社で実施
			廃棄物適正管理セミナー開催（11月実施 電鉄・グループ各社の環境リーダー・実務者が参加） 廃棄物処理施設の視察会開催（3月 墨田区内の処理施設を視察 同上のリーダー・実務者が参加）
2. 地球温暖化対策	消費電力削減	本社ビル	年間使用量1,142千kWh（目標値比16.8%削減／前年度実績値比20.8%削減） ※ 夏期の電力使用制限（使用最大電力を昨夏の15%削減）：23.8%の削減を達成
			窓ガラスに貼付している飛散防止フィルムを空調効率を高める断熱フィルムに貼り替え 昼休みの年間平均消灯率94.8%（目標90%以上）を達成
		鉄道事業部門	京王線車両の既存7000系6両をVVVFインバータ制御車両に整備し、全車両の整備率98%を達成 京王線車両（1編成8両）、井の頭線車両（1編成5両）の客室内照明にLEDを採用 LED照明を2駅のダウンライトに導入、照度感知センサー設置による駅照明の効率的な点灯（1駅） 高効率照明機器（無電力型電球）を踏切18カ所に導入
			開発事業部門
	廃棄物削減	鉄道事業部門	ICカード移行促進による磁気乗車券の利用削減 ICカード利用率 2009年度：80.8%、2010年度：84.0%、2011年度：86.7%
	緑化推進	鉄道事業部門	東府中駅で壁面・屋上を緑化、つつじヶ丘駅で屋上緑化
	節水施策	鉄道事業部門	19駅で節水型のトイレを整備
	3. 資源循環	印刷用紙の使用量削減	本社ビル
グリーン購入の推進		グループ全体	グループ平均43.3%（目標40%以上） 電鉄平均47.4%（目標45%以上）
廃棄物の再利用推進		鉄道事業部門	工事発生資材の再利用（PCまくら木500本を鉄道他社へ譲渡／140本を当社車庫線などで活用）
廃棄物の再資源化推進		本社ビル	再資源化率84.4%（分別廃棄が難しいまとまった粗大ゴミの排出で目標85%以上、前年度実績85.6%のいずれも下回った） 廃棄パソコン153台を全てリサイクル処理
	開発事業部門	ショッピングセンター（7カ所）の館内テナントを含めた分別廃棄・リサイクル処理を徹底（分別不十分な廃棄物は館内排出者へ再分別を指示）	
4. 生物多様性	環境保全活動の実施	グループ全体	「京王クリーンキャンペーン」5月に高尾山、11月に多摩川の清掃活動を実施（年2回の実施で一般参加者を含め延べ1,608名が参加） 「高尾の森づくりの会」主催の裏高尾小下沢国有林再生活動を支援（4月の植樹祭他、年間の手入れ作業に参加）
		一般管理部門	「高尾の森 親子森林体験スクール」の実施（2期6回開催）
	情報発信	一般管理部門	環境セミナー「多摩の里山に目を向けよう、出かけよう」を多摩森林科学園と共催で開催（170名来場）
		鉄道事業部門	京王百草園周辺に生息する動物の紹介看板を園内に設置
5. 環境 コミュニケーション	環境関連活動のPR	一般管理部門	環境CSRの取り組みをポスターで年6回PR ニュースリリースを年9回発信
	環境教育	一般管理部門	「高尾の森わくわくビレッジ」にて第6回「環境を学ぶエコキャンプ」（1泊2日）を8月に開催
		グループ全体	新入・転入の社員を対象にさまざまな環境教育プログラムを実施
	環境CSR	本社ビル	海外の子どもたちの生活支援を行うNPO（民間非営利団体）法人へ、社内不要となった書籍74冊、使用済みの切手6千枚を寄付
本社ビル他		海外の子どもたちへポリオワクチンを届ける活動団体へ、ペットボトルキャップを寄付して支援約93千個（ポリオワクチン約116人分相当）を寄付（目標70千個以上）	
6. 公害防止	PCB廃棄物の適正な保管・管理	鉄道事業部門 開発事業部門	PCB混入機器の適正な保管・処分

掲載ページ	活動範囲	2012年度の環境目標
P 51	全部門	継続実施 (前年度と同様に共通目標・個別目標の取り組み状況について監査)
	グループ各社	継続実施 (6月と12月頃に実施予定)
P 51	グループ全体	継続実施 (計画に基づき順次監査)
		継続実施 (新たな処理施設を視察予定)
P57	本社ビル	年間使用量1,227kWh以下 (前年度目標と同様に2010年度使用量比で使用量・使用最大電力ともに15%以上の削減を目指す)
		一部照明に直管型LED蛍光灯を導入 消灯率93%以上
P6	鉄道事業部門	継続実施
		継続実施 (LED照明、LED式の案内看板設置を推進)
		継続実施 (導入推進)
開発事業部門	京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター (A館) 空調機用インバータ盤更新	
	京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター、京王八王子ショッピングセンターの誘導灯をLED化	
本社ビル	廃棄物 (一般廃棄物・産業廃棄物の総量) を年間排出量66.6t以下	
鉄道事業部門	継続実施 (磁気乗車券の利用削減)	
鉄道事業部門	継続実施 (緑化推進)	
鉄道事業部門	継続実施 (駅トイレの節水化を7駅で整備予定)	
本社ビル	年間使用量10,600千枚以下	
グループ全体	継続実施 (グループ平均43%以上 電鉄平均48%以上)	
P56	鉄道事業部門	継続実施 (工事発生資材の再利用)
本社ビル	再資源化率85%以上	
		リサイクル率100%
開発事業部門	継続実施 (分別廃棄・リサイクル処理を徹底)	
P 60	グループ全体	継続実施 (例年どおり年2回開催)
P12		継続実施 (4月の植樹祭をはじめ、年間の森林再生作業に参加)
P13	一般管理部門	継続実施 (2期6回開催)
P 60	一般管理部門	継続実施 (環境セミナーを開催予定)
P59	一般管理部門	継続実施
P 61	一般管理部門	継続実施 (8月開催予定)
	グループ全体	継続実施
本社ビル	書籍を50冊以上、切手を3千枚以上寄付	
本社ビル他	ペットボトルキャップを年間85千個以上寄付	
鉄道事業部門 開発事業部門		継続実施 (適正な保管・処分)

## 京王電鉄の活動事例

### 鉄道事業部門

#### 資源や水の有効利用を図っています

##### まくら木のリサイクル

井の頭線を中心に進めている、省力化軌道工事※にともなうまくら木の交換により不要となったPC（コンクリート）まくら木を、当社車庫線に再利用したり、他の鉄道会社に売却するなど、有効活用しています。

※まくら木周辺の碎石をアスファルトセメントで固定することで軌道のくいを防止し、保守の省力化を図るための工事です。

##### 車両・部品洗浄水の節水

若葉台工場では、車両や部品の洗浄などに用いる水の使用量を削減するため、「処理水再利用装置」を導入しています。この装置で、使用済みの水の汚れを取り除き、洗浄水などに再利用しています。現在、洗浄に用いる水の約40%はこの装置により処理されたものです。

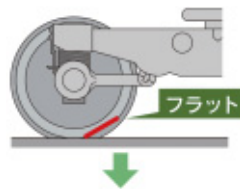
また、2011年度には、若葉台車両基地内に、洗浄に使用する水を約50%削減できる車両洗浄装置を導入しました。



車両洗浄水の節水

#### 電車の走行音の低減に努めています

車輪の振動を自動的に検出するセンサーを京王線・井の頭線に各1カ所設置し、車輪のフラットによる騒音・振動を早期に発見・改善しています。



雨天時などのブレーキ中に車軸がロックしてレール上を滑ると平らな部分（フラット）ができ、騒音・振動のもとになります。



フラットによって生じる車輪の振動を自動的にセンサーで検知し、すぐに車両基地へデータが転送されます。



車輪の削正

車両基地で車輪の削正や交換を行いフラットをなくし、騒音・振動・乗り心地を改善します。

##### 鉄桁防音対策

桁が鉄製の橋梁においては、下面および側面に防音材を、また、レールとまくら木の間には防振タイプレートを設置し、騒音・振動の低減に努めています。

##### ロングレール化

1本が200m以上の長いレールを使用し、レールの継目箇所を少なくすることで、列車の騒音や振動が減り、乗り心地も向上します。これまでに、曲線半径400m以上の敷設可能区間は、長大橋梁を含めロングレール化を完了しています。

#### 清掃用シンナーの再利用を進めています

若葉台工場では、台車や車体を清掃するロボットの清掃時に排出されるペンキが混ざったシンナーから、シンナーを分離・回収する「溶剤再生装置」を導入しています。回収したシンナーを再使用することで、シンナーの購入量は導入前に比べて半減しました。

#### 省エネルギー施策に取り組んでいます

特集1（P6～7）をご覧ください。



## 開発事業部門

### 省エネルギー化工事、施設運用改善の2つの視点でCO<sub>2</sub>排出量を削減

京王電鉄は、東京都環境確保条例のCO<sub>2</sub>排出量削減義務の対象となる単独所有の大規模ビル8物件のCO<sub>2</sub>排出量について、2012年度に基準値に対して12%の削減を目指しています。これにより2010年度～2014年度における年平均8%（一部6%）の削減義務達成を図ります。このほか、都外・中小ビルを含めた省エネルギー施策も実施しています。

省エネルギー施策は主に2つの方法、①省エネルギー化工事（高効率設備への更新など）と②施設運用改善（照明や空調設備の効率的稼働など）があります。

①として、建物全体のエネルギー使用量の大きな比率を占める空調設備を中心に、省エネルギー効果が高い工事については、補助金を取得しながら工事を実施しました。京王プラザホテル新宿では、空調・熱源設備を高効率な仕様へ更新し、合理的に空調機器の運転を制御できるシステムを導入しました。京王プラザホテル札幌でも高効率ボイラーへの更新を行いました。また、2012年度は京王新宿三丁目ビルで照明器具のLED化を予定しています。

②では、照明器具の間引き、トイレの暖房便座・エアタオルの使用停止・空調機器の設定温度変更などを実施しました。

CO<sub>2</sub>削減義務の達成に向けて、今後は、東京都のCO<sub>2</sub>排出量取引制度を活用していくことも検討しています。

## 一般管理部門

### 本社ビルでは、効果の高い施策から計画的に導入

京王電鉄本社ビルでは、省エネルギーに関するさまざまな機器や技術の情報収集を行い、導入効果の高い施策を中心に、計画的な実施を行っています。

#### これまでの取り組み

年度	施策
2009	共用部ダウンライトのLED化
2010	トイレスイッチのセンサー化
	トイレ個室のダウンライトLED化
	非常口誘導灯のLED化
2011	窓ガラスへの断熱フィルムの貼付
2012	直管型LED照明の導入

#### 断熱フィルムの貼付（2011年度実施）

従来、飛散防止機能のみであった窓ガラスの貼付フィルムを、断熱機能を備えたフィルムに貼り替えました。夏期には室内への熱放射が抑えられ、冬期には室内の対流熱損失が抑制されることで、空調効率を高めることができます。

#### 直管型LED照明の導入（2012年度実施）

ダウンライトのLED化に続き、社内に多く設置されている蛍光灯照明のうち約150本について、直管型LED照明を先行導入しました。

## Green Happiness 井の頭線

### 住む人と地球にやさしい井の頭線を目指して



Green Happiness

井の頭線

当社では「Green Happiness 井の頭線」をテーマに、井の頭恩賜公園や玉川上水など緑が多い井の頭線沿線地域で、暮らしやすく活気ある街づくりを進めていきます。

## 沿線の緑化

降雨による法面の崩壊を防ぐとともに、お客さまに沿線風景を楽しんでいただくことを目的として、線路わきにアジサイやツツジ、サザンカなどを植栽し、緑化しています。



線路わきの緑化

## 屋上庭園「ふくにわ」

2011年3月にオープンした「京王リトナード永福町」には、地域の方の憩いの場として屋上庭園「ふくにわ」を併設しています。桜、キンカン、ユズなど季節の木々や草花が香るこの庭園は、環境省が主催する「平成22年度『みどり香るまちづくり』企画コンテスト」に入賞しました。

## グループ会社の活動事例

### 京王電鉄バスグループ、西東京バスは、エコドライブと新たな排出ガス規制に対応した車両の導入を推進

京王電鉄バスグループは、自動的にエンジンを停止させるアイドリング・ストップ装置を1998年以降導入の車両に装着しています。また、従来の軽油よりも環境負荷の少ないCNG（圧縮天然ガス）を燃料とする車両を50台導入したほか、専用のCNGスタンド「京王エコ・ステーション永福町」を設置しました。2010年9月から、世界で最も厳しいとされる排出ガス規制「ポスト新長期規制」に適合した車両を導入し、排出ガス中のCO<sub>2</sub>や有害物質の削減に取り組んでいます。こうした活動により、京王電鉄バスグループ5社・全11営業所が、環境保全活動に関する認証制度「グリーン経営認証\*」を取得しました。一方、2009年度までにデジタルタコグラフを全車両に導入したほか、社員教育の一環として、乗務員のエコドライブ教育を行うなど、意識改革にも積極的に取り組んでいます。この結果、2011年度は路線バス車両の燃費効率が2005年度比で11.9%向上し、年間でおおよそ144万1千ℓの軽油を削減することができました。

また、自然エネルギーの利用拡大に向けて、2010年に完成した桜ヶ丘営業所の屋上に、最大発電能力10kWの太陽光発電パネルを設置しました。所内の空調や厨房、洗濯機などで利用しています。

※国土交通省の外郭団体「交通エコロジー・モビリティ財団」が作成したグリーン経営推進マニュアルに基づいて、燃費改善やエコドライブ教育など、継続的かつ計画的な環境保全活動を実施していることが認められた団体に認証が与えられます。



桜ヶ丘営業所の屋上に設置した太陽光発電パネル

西東京バスでは、アイドリング・ストップ装置を路線バス全車両（270両）に装着しているほか、「ポスト新長期規制」に適合した車両を順次導入し、排出ガス中のCO<sub>2</sub>や有害物質の削減に取り組んでいます。

また、エコドライブ（アイドリング・ストップ実施やエンジン回転数の抑制など）推進のため、デジタルタコグラフを2007年度から順次導入し、同データに基づき乗務員の個別指導を実施しています。デジタルタコグラフは2012年6月に路線バス全車両への導入が完了しました。

このほか、羽村市から運行を受託しているコミュニティバス「はむらん」において、定期路線バスでは日本初となる電気バスによる運行を2012年3月から開始しました。



「はむらん」でんきバス

羽村市役所に設置された急速充電器で充電



電気コンセントとハートをイメージにデザインされた「でんきバス」のシンボルマーク

### 京王自動車は、エコドライブとハイブリッドカーなどの導入を推進

京王自動車のタクシーは、CO<sub>2</sub>排出量がガソリン車より10～15%少ないLPガス車を使用しています。ハイブリッドカーについては、2011年度に10台導入し、ハイブリッドカーの保有台数は15台となりました。また、2011年に引き続き横須賀市の「EV（電気自動車）タクシー導入モデル事業」に参加し、電気自動車タクシーを横須賀営業所で2台運行しています。アイドリング・ストップ車の導入も続けており、2012年6月現在での導入台数はタクシー823台中364台となりました。

エコドライブの推進についてはEMS（エコドライブ管理システム）を全車に導入し、各乗務員の急発進・急加速・急停車の有無やアイドリング時間を数値化して取り組んでいます。

## 京王運輸は、トラックのエコドライブを推進

京王運輸は、従来から「エコドライブ講習会」「省燃費運動」などの活動を通じて、運転者の意識啓発を通じた燃費向上に取り組んでいます。

2011年度は、より積極的に環境問題に取り組むために、東京都トラック協会主催の「グリーン・エコプロジェクト」に参加しました。このプロジェクトは、参加各社が車両ごとの燃費データを提出し、セミナーなどの開催を通じて、エコドライブの推進や事故防止をサポートする取り組みです。また、交通エコロジー・モビリティ財団認定の講習会「エコドライブ講習会」には18名の運転者が参加しました。さらに、社内運動の「省燃費運動」については、9月～11月にわたって実施しました。

こうした継続的な活動の成果として、京王運輸は、2012年6月に、グリーン経営の認証を更新しました。



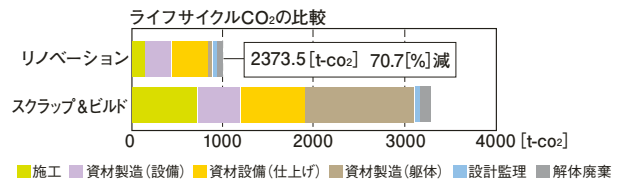
燃料給油後に給油量を走行管理表に記入

## リビタは、小さな環境負荷でこだわりの住空間を提案する「リノベーション事業」を展開

既存の建築物をリニューアル・再生し、魅力ある住宅を供給するリノベーション事業は、限られた資源を有効に使いCO<sub>2</sub>排出量を削減する、地球環境にやさしい手法です。例えば「リノア多摩川CORTE」では、省エネルギー改修を行うことで、ライフサイクルCO<sub>2</sub>を70%削減、廃材発生量を91%削減することができました。



内装をすべて取り払った状態



※ライフサイクルCO<sub>2</sub>とは、建物の建設から運用、解体までのライフサイクルを通じて排出される二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の量を指します。

※ライフサイクル廃材発生量とは、建物を解体した場合に発生する材料を指します。建物が与える地球温暖化への影響を評価する指標です。

## 社会・環境コミュニケーション

京王グループは、お客さまや社員、地域の方々など、さまざまなステークホルダーとともに環境保全活動を行い、環境・社会に対する考え方をお伝えすることで、社会から信頼される存在を目指しています。

### 環境・社会への取り組みや考え方をお伝えしています

#### 京王PRボード

京王グループの社会・環境活動を紹介するポスターを制作し、お客さまとのコミュニケーションを図っています。2011年度は、「高尾の森の再生支援」、「京王音楽祭」などの活動を取り上げ、駅の「京王PRボード」に掲示しました。



高尾の森の再生支援



京王音楽祭

#### 京王ニュース

当社事業や環境への取り組みなどのCSRに関する情報発信・コミュニケーションをはじめ、京王グループからのお役立ち情報や沿線のさまざまなイベントなどを紹介する月刊の情報誌です。1955年に創刊し、現在の発行部数は110万部を越え、沿線をはじめとする多くのお客さまにご覧いただいています。

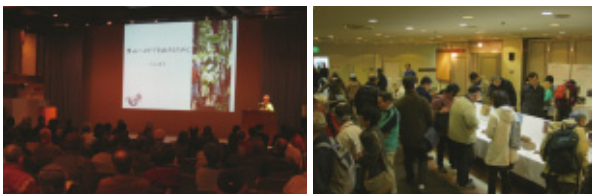


京王ニュース

## 多摩の里山をテーマに、「環境セミナー」を開催

京王電鉄は、2012年1月21日に独立行政法人森林総合研究所多摩森林科学園と共催で「多摩の里山に目を向けよう、出かけよう」と題した環境セミナーを開催し、170名に参加いただきました。京王沿線に今も残る「多摩の里山の人との歴史や関わり」、「里山に生きるケモノたち」、「里山へ出かけるときのヒント」が多摩森林科学園の研究者から紹介され、当社からも環境教育をはじめとした環境への取り組みを紹介しました。

会場内には、多摩市立連光寺小学校の児童が森林総合研究所の雑木林で調べた生き物や炭焼き体験などの学習成果を紹介した展示物のほか、公益社団法人日本山岳会「高尾の森づくりの会」が所有する実物の鳥の巣やリスの巣、リスが食べた後のマツボックリ（通称 森のエビフライ）などを展示し、多くの方が熱心に観賞されました。



多摩の里山について講演 野生動物生息の痕跡を実物展示

## 生物多様性の保全是身近な自然を知ることから

森林総合研究所多摩森林科学園  
吉丸博志園長



多摩森林科学園では都市近郊に残る森林に見られる動植物の生態調査やその保全管理、森林環境教育などの研究を進めています。2012年1月には京王電鉄と共同で、多摩の里山の生物多様性をテーマにした「環境セミナー」を開催しました。人が持ち込んだり侵入してきた生物が地域の生物多様性を攪乱することが、国内各地で問題になっています。京王電鉄沿線の多摩地区の森には自然の動植物が多く生育していますが、元々生育していた動植物のことをよく知ることが今後も重要だと思います。



野外森林教室

## 沿線地域の環境保全に向けて、京王クリーンキャンペーンを実施

沿線地域の環境保全を目的に、春は高尾山、秋は多摩川の清掃活動を行っています。京王グループ社員をはじめ、地域の皆さまにも参加いただけるよう、駅のポスター、京王ホームページ、京王ニュースで呼びかけています。この活動は1991年にスタートし、これまでに43回実施しました。



京王クリーンキャンペーン高尾山



京王クリーンキャンペーン多摩川

## 高尾の森わくわくビレッジは、子どもたちの啓発に注力

「高尾の森わくわくビレッジ」は、廃校となった都立高校の建物を改修し、宿泊施設、活動施設（野外活動・スポーツ・文化学習）、レストランなどを備えた総合的な社会教育施設として、2005年4月にオープンしました。豊かな自然環境を活かして、野外・自然体験活動の「機会」と「場」を提供するとともに、自然とのふれあいを大切に考え、暖かみのあるサービスを提供しています。小学校から大学までの学校団体に教育の場として活用していただいているほか、地域の団体やご家族など多くの方々にご利用いただき、好評を得ています。

※「高尾の森わくわくビレッジ」は、京王ユース・プラザが、東京都からPFI方式により運営を受託し、社会教育の分野で実績のある東京YMCAグループと協働で施設を運営しています。



高尾の森わくわくビレッジ

## 環境を学ぶエコキャンプ

京王電鉄では、高尾の森わくわくビレッジにて小学生を対象とした1泊2日の「環境を学ぶエコキャンプ」を開催しています。このキャンプは2006年にスタートし、7回目を2012年8月24日～25日に開催しました。子どもたちは、キャンプ生活やプログラム体験を通じて、自然に対する興味や関心を高め、日常生活で自分たちにもできるエコを考えました。子どもたちの2日間の生活をサポートするキャンプリーダーには、社員がボランティアで参加しています。



環境を学ぶエコキャンプ

## 京王観光は、棚田の保全に協力

京王観光では、2000年から長野県内の棚田で、田植え、あぜ草刈り、稲刈り・はぜかけ、脱穀・精米といった農作業体験を行っています。この活動は、「生態系の維持」、「日本古来の農耕文化の継承」など棚田の役割を理解した上で、実際に作業に携わることで、日本の原風景である棚田の保全に協力することを目的としています。これまでに社員や家族・友人など、延べ400名近くが参加しました。



田植えの様子



はぜかけの様子

## 御岳登山鉄道は、お客さまと一体になった活動を展開

### 「花粉の少ない森づくり運動」協賛イベント

現在、多摩地区の森林の約6割がスギ・ヒノキの人工林で、国産材の需要低迷により伐採・植え替えが遅

れています。御岳登山鉄道では、東京都の展開する「花粉の少ない森づくり運動」に協力しています。

2011年度は「花粉の少ない森づくり運動」協賛イベントを8回開催しました。このイベントは公益財団法人東京都農林水産振興財団とのタイアップによるもので、財団の職員からイベントに参加されるお客さまへ同運動の説明を行い、お客さまには参加費の一部(100円)を財団に寄付していただきました。協賛イベントには合計236名のお客さまに参加いただき、また、イベント以外でも駅構内に募金箱を設置しています。

### 絶滅危惧種レンゲショウマの保全活動

御岳登山鉄道は、絶滅危惧種であるレンゲショウマの保全活動の一環として、御岳山観光協会と協力し、レンゲショウマ群生地の下草刈りやハイキングコースの整備を行いました。

レンゲショウマをより多くのお客さまに知っていただくよう、開花時期にあわせた「レンゲショウマまつり」や、ボランティアガイドと一緒に歩く「レンゲショウマハイキング」を毎年開催しています。このハイキングコースには、御岳山名物のロックガーデンも含まれており、好評を博しています。



レンゲショウマハイキング



レンゲショウマ

### 「バスモ・スイカ直接乗車でスギ花粉を減らそう!」キャンペーン

御岳登山鉄道では、2011年10月29日～12月4日に「バスモ・スイカ直接乗車でスギ花粉を減らそう!」キャンペーンを行いました。期間中、バスモ・スイカで直接乗車されたお客さまに「東京多摩産ヒノキチップ」を無料で配布するとともに、同社から1袋につき5円を公益財団法人東京都農林水産振興財団の「花粉の少ない森づくり募金」へ寄付しました。9,000袋を配布し、45,000円を寄付しました。

## 環境会計

環境保全に向けて、2011年度は約80億円の環境投資・費用を行使しました。

当社は、環境負荷の低減に向けて鉄道車両や駅・オフィスビルなどの省エネルギー化、廃棄物の分別、リサイクルなどのレベルアップを図るため、積極的な環境投資を継続しています。

2011年度は、調布駅付近連続立体交差事業の進捗にともない、公害防止コストが減少するなど、環境投資・費用は全体で10.3%の減少となりました。

### 2011年度の環境保全コスト(投資・費用額)

(単位：百万円)

内容	主な取り組み	具体的内容	投資	費用
<b>(1) 事業エリア内コスト</b>			<b>6,005</b>	<b>1,816</b>
① 公害防止コスト	●騒音振動防止 ●大気汚染防止 ●水質汚濁防止	◎連続立体交差化 ◎ロングレール化軌道 ◎草刈 ◎スレート屋根置換 ◎節水コマ ◎PCB 機器処理	4,347	633
② 地球環境保全コスト	●省エネルギー化 ●モータリシフト ●オゾン層破壊防止	◎VVVF化 ◎受変電設備更新 ◎ビル空調・ポンプのインバーター化 ◎エレベーター・エスカレーター新設 ◎幅広改札機 ◎冷凍機点検 ◎消火設備補修	1,366	158
③ 資源循環コスト	●廃棄物処理・処分 ●廃棄物減量 ●廃棄物リサイクル	◎駅清掃費 ◎車両清掃費 ◎PASMO 関連費用 ◎座席シート更換	292	1,025
(2) 管理活動コスト	●景観保持 ●自然保護・緑化 ●教育・啓発	◎緑化 ◎植栽管理 ◎環境アセスメント ◎環境報告書制作 ◎環境啓発ポスター作成 ◎社内教育	39	125
(3) 社会活動コスト	●自然保護・緑化 ●環境保全の寄付 ●社会的取り組み	◎「京王クリーンキャンペーン」実施 ◎各種寄付 ◎「環境を学ぶエコキャンプ」実施	0	2
合計			6,044	1,943
コスト総計			7,987	

#### [対象期間]

2011年4月1日～2012年3月31日

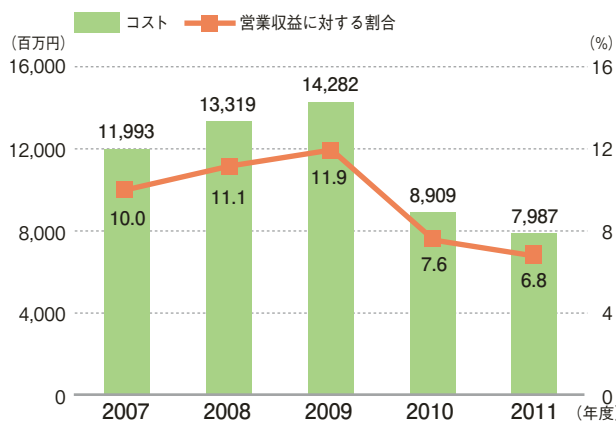
#### [対象範囲]

京王電鉄株式会社の鉄道事業部門、開発事業部門、一般管理部門で発生した環境保全コストを対象としています。  
(京王グループ各社で発生したコストは含んでいません)

#### [算定基準]

- 「環境省環境会計ガイドライン(2005年版)」および「民鉄事業環境会計ガイドライン(2008年版)」を参考に集計しています。
- 環境保全コストとして確実に把握したもののみ計上しています。
- 減価償却費は計上していません。

### 環境保全コストの推移



### 今年度の活動には深化が見られる。 沿線社会との「共生」の姿を、今後も追求して欲しい



一橋大学大学院商学研究科教授  
商学博士

伊藤 邦雄

京王グループのCSR活動には深化が見られる。これまでの活動、そして昨年の活動と比較してみると、今年度の活動は基本路線を変えずに、改善努力を地道に積み重ねていることがうかがえる。それが本報告書の「安全報告」「社会性報告」「環境報告」のいずれにおいても見て取れる。

まず安全面では、「安全は最大の使命であり、最高のサービスである」との信念のもとに、さまざまな取り組みを継続している。中でも、信号システムへのATC（自動列車制御装置）導入が京王線全線で完了し、井の頭線でも今年度中の切り替えが完了する。また調布駅付近連続立体交差事業では、18カ所の踏切を廃止し、2012年8月に地下線への切り替えが行われた。まさに、今年度は安全面でのエポックと高く評価できる。

鉄道事業は安全を追求しながら、同時に多くの人々へのサービスを提供しているという意味で、「社会性」を有している。この点で、まずは駅施設の段差解消によるバリアフリー化が完了したことが大きい。他に多機能トイレ、幅広自動改札機の設置なども駅施設の利便性を高めている。また鉄道車内でも車いすスペースや優先席、女性専用車の設定なども、「おもいやり」が感じられる取り組みである。ただ、「おもいやり」に際限はない。今後も「おもいやり」の深化に努めてほしい。

また認証保育所の「京王キッズプラッツ」や子育て支援施設などの子育て支援事業、沿線での生活サポートサービスも着実に拡充してきている。

鉄道事業は沿線の自然とともにある。鉄道だけを切り分けて捉えるのではなく、沿線との「共生」が肝要である。その点で、京王グループの展開す

る自然保護活動は特筆に値する。2002年から始めた高尾山の植林活動への支援・参加、1991年から続けている高尾山（春）、多摩川（秋）で実施される「京王クリーンキャンペーン」など、どの活動にも地域住民のみならず社員がボランティアとして参画しているのが嬉しい。こうした活動を通じて社員は活力を得、住民は企業の陰徳を知る。2009年から始めた「京王キッズおしごと隊」への参加者も増えているのが嬉しい。

グループを挙げての環境への取り組みも深化している。全鉄道車両がエネルギー効率の良いVVVFインバータ制御装置を搭載した車両となったことは、大手民鉄で初めてである。回生ブレーキとの併用により、従来車両に比べ消費電力が約45%削減されている。所有する大規模事業所8物件におけるCO<sub>2</sub>削減計画では、東京都環境確保条例で義務づけられたCO<sub>2</sub>削減水準をはるかに上回る削減を目指している。

また駅施設でも、省電力型案内看板、太陽光発電、自然採光の駅コンコースなど、さまざまな省エネルギー化の工夫がされており、評価できる。京王グループのCSR活動の水準はおおむね高い。しかしCSR活動に終わりはない。地道に続けるしかない。今年度の京王グループのCSR活動を形容するキーワードは「深化」と「エポック」である。地道な継続は、のちに1つの到達点を迎える。しかし、それは次の「エポック」に向けた活動の起点でもある。経営者、社員、そして利用者、沿線住民が一体なった「共生」の姿を今後も追求して行って欲しい。

## 表紙の説明

鉄道は、環境負荷の少ない交通手段です。

京王電鉄の鉄道事業は、

東京都心部と自然豊かな多摩地区を結ぶ「京王線」と「井の頭線」からなり、

1日約171万人のお客さまにご利用いただいています。

環境保全の重要性に対する認識が高まるなか、

私たちは豊かな自然を次世代に継承していきたいと考えています。

そのためにも、より環境負荷を低減する施策を実行するとともに、

さらなる安全性・快適性の向上に取り組み、

多くの方々に鉄道をご利用いただけるよう努めていきます。

# KEIO

あなたと あたらしい あしたへ——京王グループ

## 京王電鉄株式会社

〒206-8502

東京都多摩市関戸一丁目9番地1

安全・社会・環境報告書に関するお問い合わせ

広報部 企画・環境担当

Tel. 042-337-3038

Fax. 042-337-5536

[www.keio.co.jp](http://www.keio.co.jp)

2012年9月発行



この安全・社会・環境報告書の用紙は、FSC 認証紙を使用しています。

インクには NonVOC インクを使用し、印刷は水なし印刷で、環境負荷の低減を図っています。